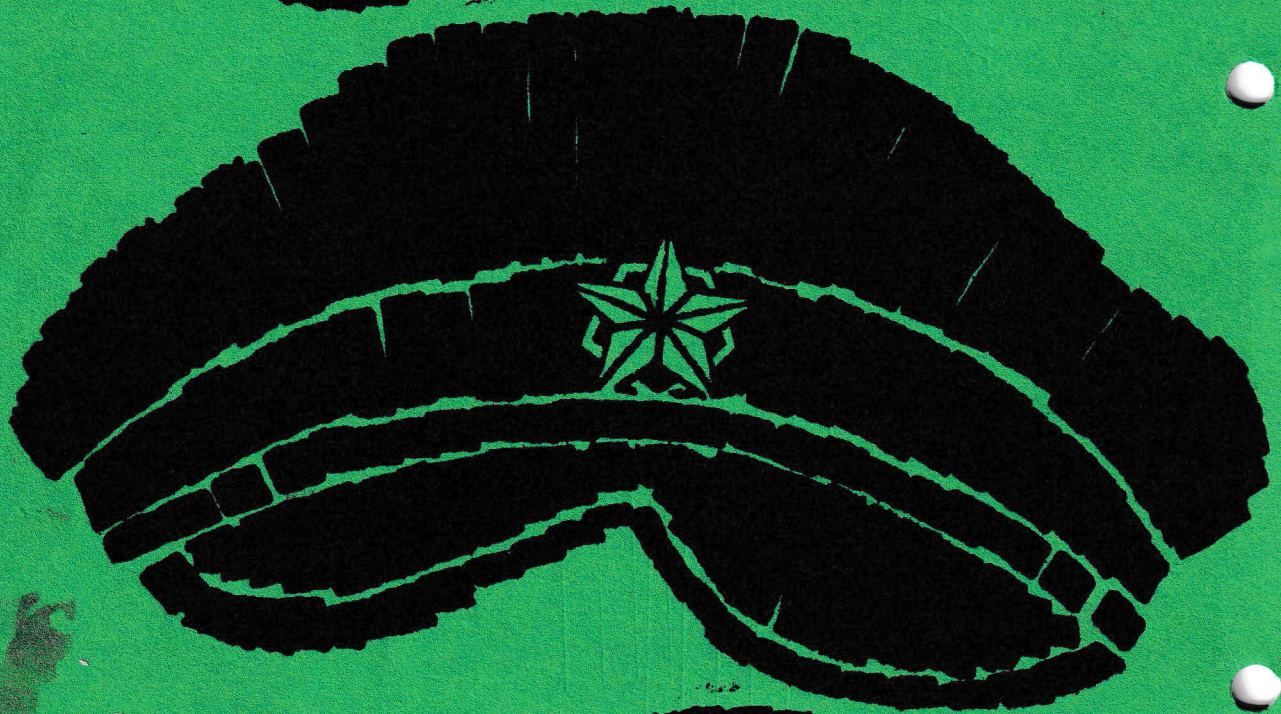


静中・静高 会報13
関東同窓会



新年懇親会

於 トップアンムーア



一月二十九日トップアンムーア社末来開釜室で恒例の新年懇親会が催された。奥野副会長の司会で開会宮澤会長から年頭の挨拶と共に、同窓会規約の改訂問題について、関東同窓会の考え方である独立性を持った地域同窓会の連合体構想と今回の改訂との間には未だ大きな隔りがあり、今後この面の改善を要するが今回の改訂により当会から同窓会副会長を出す点について硬直した態度をとる事はないと考えるとの意見が述べられ、又関東同窓会の発展と共に会務も複雑多様化しているので業務分担のため副会長の増員が必要であり、本年総会に59奥沢徹、60上杉重吉、67成岡英彦の三氏を推薦したいとの要望があり、一同拍手を以て賛成した。

次で副会長の候補者に指名された諸氏の挨拶があり、時の人奥沢氏の首頭で乾杯して懇親会に入った。

当日の出席者四一名、女性会員四名の姿も賑やかに、四二回から九四回までの同窓生が楽しく語る一時を持ち、恒例により校歌全節を斉唱して閉会した。

(月見里記)

その後の同窓会活動

○五六年十二月十日 幹事会

出席者三八名、議事次の通り。
一、会報発送依頼及び会報に会員便り欄設置の件。

二、新年会の件。一月二十九日トップアンムーア社会議室で行う事とし

会費その他昨年並、細部は事務局一任と決定した。

三、ゴルフ会の報告。

四、規約検討委の件。今回の同窓会規約改訂の経緯につき岩波顧問から質問があり、月見里委員から説明、質議意見があった後、当会に規約検討委を設ける事となり、

42期井出、岩崎、岩波、村松、43期田崎、47期杉山、55期相川、60期上杉、67期成岡、71期後藤の諸氏及び奥野副会長月見里幹事長を委員に選出した。

○一月二日 規約検討委員会
出席者全委員。議事次の通り。
会の運営進行について取り決めた後、岩崎岩波両委員から、同窓会の発生成長段階として、従来の静岡地域の組織から現在は全国的組織に切替える時期にあり、その形は各地域同窓会の連合体とし、又会費も一本化すべきであるとの意見が出された。月見里委員から静岡に於ける委員会でも全国的組織

の必要性については、鈴木同窓会長以下によく認識されているが、歴史的な体制の切換には時間が必要であり、又財務上の問題も慎重に検討する必要があるとして現状の説明があった。

相川委員から業務の集中運営に關して、関東に於ける会報活動は中止すべきではないとの意見があり、その他静岡の委員会に対する意見表明の方法等について討論の後、今回の規約改訂に伴う関東代表副会長の件については奥野副会長が宮澤会長の承認を得て処理する事とした。

○四月一九日 幹事会
出席者三名、議事次の通り。
一、五六年度事業報告、会計報告及び五七年度事業計画案、予算案を奥野副会長から説明。表示方法につき修正後承認。

二、五七年度総会の件。六月二五日スエヒロ、会費五千元その他事務局一任とした。影山幹事から六月下旬は大学の試験期に入るとの意見あり今後留意する事とした。

○五月二六日 幹事会
一、総会準備状況の報告及び案内状発送依頼があり欠席期への発送は六月三日有志で行う事とした。

二、ゴルフ会の件七月七日東名カントリーの予定が発表された。

各 期 便 り

四二回

(よんにー会報)

本会々報も既に13号を数えるに至ったが「天下の静高庵で待つ」と自他共に許している42期の情報「各期便り」にあまり見えない。

考えて見ると、関東同窓会長が宮沢次郎(以下敬称略)副会長の一人が柳川太郎、監事の一人が村松直(神奈川支部江の島会長)、期幹事が高名の井出多夫、それに有力な顧問として岩崎康と岩波信平の面々すべて42期であって、これらが一丸、強力な推進力となつて会の運営や発展の為に貢献している事はあまりにも周知の事実である。為今更紹介の要が無いかも知れない。しかしながら会員名簿に搭載されているよんにー会員は43名居るので、会員全般の動きもつかみたい。ところが、これがなかなか至難のわざで、関東同窓会や江の島会等の総会にも全員が集まる訳でもなく、静岡に於けるよんにー会総会もこの所故か開かれな

い。従つて風の便りに聞く位のものであるが、しかし夫々結構頑張っているようなので同慶の至りである。

さて何処の世界でも常連というものには自ら決まるものであつて、よんにー会に於いてもその例に漏れない。上記の外必ず顔を見せるのが宮崎忠輝、続いて堀夷、坂野隆介、中嶋敏、仙台からわざわざ

国分友英、静岡からはよんにー会長の森嶺の諸氏が時々会合する。近くには去る二月二十五日(木)新橋の「なにわ」で、後輩の奥沢徹(59)上杉重吉(60)成岡英彦(67)の三君を招いて愉快にやつたが、同級同窓の集まりは誠によいものである。

さて卒業して55年、よんにー会員も既に古稀を通り越して年波は寄るばかりであるが、しかし岳南健児の気骨だけは永久に堅持したものである。ご自愛を乞う。

(村松直)

四三回

屋敷にしてから例会も回を重ねて五回開かれた。第六回を去年十

二月三日、忘年会を兼ねて東電環境エンジニアリング(社)の会議室を北里良夫君の御配慮で借りして開催した。

静岡より磯谷幸一郎・小杉一の両君が御多忙中を出席していただき、地元会員の動向、会合予定等を披露していただいた。

名物の安倍川餅を沢山いただいたので、甘辛二本立の忘年会となり、昔の安倍川橋のたもと石部屋の二階の座敷で食べた中学時代の思い出が話題となった。次回を来春開くことにしてお開きにした。

当日の出席者は次の通り。

静岡 磯谷幸一郎 小杉 一
東京 今井志郎 池谷三郎
小川直人 北里良夫
島田富治雄 清水正照
芹沢正憲 田崎茂夫
豊島英雄 西沢純三
三宅静雄 三好由三郎
出家 清 計十五名

四三会第八十一回大会

昭和五十七年四月三日午後静岡の三笑亭で、大石貞次君の御配慮で賑々しく開催した。

浅間神社の二十日会祭の中日にあたり、参拝を兼ねたお祭り気分の集りと、会員の殆んどが今年の成年生れなのでその干支を祝つて

の集会となった。

新年度始め早々の集りであったため、現役の方々の多数は御多忙のため欠席されたので、残念乍ら十七名の会合になってしまった。

関東からは、漸く音楽界の第一線から勇退された豊島英雄君が久々に出席して、関東からの代表となった。

関西からは例会へは常連の平山桂君が嬰鏢として出席され、日頃からの養生訓の実践もさる事ながら、医学の進歩と生命への無限の情熱とを示していただいた。

出席者全員そろった所で幹事の首頭で乾盃、三笑亭特選の料理で大いに英気を養った。すっかりお祭り気分になりながら、会員の長寿と健康を祈念した。

東京四三会も普段の会合は昼食会にしてからは出席率も上がったが、静岡の本部でも五月の例会より毎月二十日正午から三笑亭に集ることに決めた。これからは二十日を挟んで静岡へ来ていただき、是非出席していただきたい。これからの集合を楽しみにして再会を約して夕刻頃解散した。



加藤金作 鷲津恭一
藤田金作 高須 彰
滝口亀太郎 沖虎次郎
磯谷幸一郎 八木友治
矢部 孝 大石貞治
堀田利郎 見原三郎
永井 景 小杉 一
豊島英雄 松永清平
平山 桂

叙 勲
勲二等瑞宝章

環 晴行
国立水戸病院

名誉病院長
(西沢純三)

四七回

四七期会合

客年十二月、つぎの端書が舞いこんだ。「……一部の方々より新年会を兼ね旧交を暖めてはとのご意見もありましたので、左記のとおり在京四七回の会合を計画……日時五十七年一月二十二日(金)午後六時、於新宿じゅらく(連絡者、杉山、吉田、亀山)」。

参集者(順不同)遠路の草ヶ谷石上、立川の静岡組、熱海の中村、山梨の大月から星野、久し振りに佐津川、堀、その他山上、志田、杉江、今関、石川、片山、海野修大村、鍋田、杉山、吉田、亀山、以上一九名。

静岡組外総勢八名が会の前に、田園調布に高齢嬰録の旧師佐藤教官を訪問、三保の松原の懐旧談も出たか出なかつたか、一本で済んだか、二本で終つたか、会場に到着の頃は大分出来あがつたお人も居つた様子。佐藤張さんを初め、諸々の旧師のこと、草ヶ谷の静岡報告、今年は卒業の昭和七年から丁度五十周年になるので静岡で盛大に集らうと云つた話題、第二の人生から引退した話、少し許り病気の事、国家、社会を論ずる高邁な話も出て、例によって未だ酒

も相当に呑み、呑むほどに、わいわい、ガヤガヤ、最後は岳南健児の合唱裡に、「年に一度は集らう」と云うことで、改めて「亀山幹事長」を推薦して閉幕。

おつて、上記出席者の一部に關連すること。憲法記念日の五月三日、片山のご子息の結婚式が、片山、星野が静岡野球部仲間だった詰みから媒酌人星野夫妻で挙げられた由。お目出とう。その披露宴に山上が同じ日に行われた「自主憲法制定国民大会」から駆けつけて祝詞を述べた折に、併せて改憲論をぶつたそうである。改憲と披露宴? 場所柄いささか「違憲」ではないか、との世論も強かつた由。(今関智吉)

四八回

新入会員雑感

終戦後、北は青森から南は宮崎まで各地に勤務した関係で、静岡や関東地方の諸氏にも御無沙汰していたが、第一線を退いて隠居役に退いたのを機会に、横浜の自宅に落付くことにした。

この事を親友の原崎君に連絡したところ、彼の肝入りで、東横線沿線に住む親しい連中が集つて一杯やることになった。

結果的には、私の歓迎会という

形になり恐縮したが、こういう顔ぶれで、ゆっくり盃を交わすのも実に久しぶりの事とて、昔の思い出話や、最近の話題など、話の種はつきなかつた。

唯、元氣は良いといつても、昔と違つてお互いに酒量もおち、はしごをやるうと言ひ出す者もなく再会を約して早々と一箱の車で帰つた。これも「とし」のせいかな。余りに早い帰宅に、玄関に出た女房がびっくりして「どこか具合でも悪いの?」といぶかる程だったが、とに角久しぶりに楽しい夜だった。

机の上に、五月三日天覧野球記念の対静岡商高戦と、その後に関われる野球部OB会の案内状が来ていた。

天覧野球試合といえ、昭和五年五月二十九日、私は補欠選手として、純白のユニフォーム姿で、バックネットの前に緊張して立っていた事を思い出す。

兩来両校は、この名誉ある天覧試合を記念して、毎年五月に定期戦をすることになった。

昭和六年の第一回の記念試合には、絶対有利と思われていた本校が、思わぬ不覚をとり、五一二で敗れた。

本校が県下の学校に敗れたのは

大正七年以来十二年ぶりという事で、新聞には大ニュースとして書き立てられるし、先輩からはきびしく叱られ、グラウンドでは、徹底して鍛えなおされた。

幸い翌七年には十一一〇で大勝利雪辱をとげたが、野球部史に大きな汚点を残した悔しさは未だ忘れない。

あれからもう五十年たったかと思ふと、大変なつかしく、早速出掛けた。

数十年ぶりに見た球場も、我々の時代のものの三代目とかで、プロ野球も開催される程の立派なものであった。

生憎、試合が始まる頃から小雨が降り出し、選手諸君も応援団も三時間余り、悪コンディションの許で悪戦苦斗したが、結局十一一八で辛勝、この記念試合を飾ることが出来た。

夕方、市内のレストランで行われたOB会には、七〇名余が出席したが、大半が元氣の良い若い連中で賑やかだった。

八十七才になられる大石大先輩をはじめ、村松、本間両先輩、苦楽を共にした松井(旧姓高木)君にもお会いして、思い出話に花を咲かせることが出来たのは嬉しかった。

今年は、新監督に八四期出の船川氏を迎え、連日猛練習に励んでいるので、是非甲子園に送りこむ為、OB会としても努力しようと思ひ強い雰囲気だった。

適度のアルコールも入り、久しぶりに若返つた良い気分、新幹線に乗り深夜帰宅した。

先の親しい同級生との集りといひ、このOB会といひ、今まで遠い地に居た時は、仲々出席することが出来ず残念に思っていたが、こちらに来て早々、二つの機会に恵まれ、つくづく有難く思っている。

この気持は友人達の多く居る地から遠く離れて居た者でないと味わえないものだろう。

これからも、色々な機会に、色々な人達にお会いして、今迄の御無沙汰分を取戻し、楽しく過したいと、今から期待に胸を膨らませている。(伊藤重久)

五〇回

静中時代と映画

私達五十回卒業生は、昭和五年入学昭和十年卒業である。本来ならば、昭和初頭の暗い時代の印象が強かるべきなのに、全くそんな印象のないのは、矢張り若い時代で、桜の美しい校庭と眺望できる

富士山や賤機山や、又静岡との野球試合など恵まれた環境にとり囲まれて過した所為であろう。

本四月始め静岡を訪れて何十年ぶりに、浅間神社のお祭りを見賤機山に登って、母校静岡中と静岡を見下した。戦時中は歩兵三十四連隊に配属したため、怒第四部隊として、この両母校を兵舎とされて暮らした思い出をつけ加えたが、両校併せた八年の静岡の思い出は矢張り明るく懐しみを覚えるものになりはない。

静岡中の英語の教師に金沢先生という大変映画の好きな方が居て、一時間の授業中の後半は映画の解説をしてくれた。日本映画では、伊藤大輔監督の忠次旅日記が芸術性が高いとか、外国映画では、スタンバーグのモロッコは一見の価値があるとか、映画鑑賞の推薦もしてくれたので、私達もいっしょに映画通になり、やがて映画ファンになって終ったものである。

日本映画は、この時代無声映画時代からトーキーに移って行った時代で、洋画は、チャップリンの作品を除いてすべてトーキーになっていた。

日本映画では前述の忠次旅日記三部作、伊藤大輔と山中貞雄監督の薩摩飛脚などの名作は、数人の

音楽と升士の声色に、結構酔わされたものである。当時の社会情勢を背景として作られた小津安二郎監督の生れては見たもののとか、東京物語等の小市民もの、溝口健二の滝の白糸、祇園の姉妹等も尚印象に残っている。

洋画の方は会議は踊る、未完成交響楽、青の光、狂乱のモンテカルロ、嘆きの天使、前述のモロッコ、制服の処女等のドイツ浪漫派映画の全盛時代、その後に、フランス映画の舞踏会の手帖、外人部隊、パリの屋根の下、ミモザ館、格子なき牢獄、白き処女地等の名画が続いていた。

フランス大統領ミテランの訪日を機に、この一週間フランス映画が連夜上映された。想えば四十何年ぶりに見る映画もあつた訳である。中学時代から半世紀が過ぎている。

中学から高校、大学を卒えて実社会に入り、軍隊も経験し、幾つかの会社勤め、海外も二十数ヶ国を巡り、その間に友人を作り、恋をして結婚もして、子供達も出来た。居住地は、清水市から静岡市から東京へと移っている。

静岡出身のあるパーセントの人々の迎っているパターンである。映画舞踏会の手帖は、未亡人と

なった女性が、少女時代の追憶を求めて、彷徨くテーマである。想い出は、現実より美しく、又現実とは離れているのである。

それは、想い出というものが、時の経過と共にだんだん美しく成長して行くもののであるか、又は若い時代の年令のものとは違って、熟年や老年のものの目とは違ってすべての記憶にピンクのシャのかかったように美化して映っていたのかも知れない。

半世紀も過ぎて終った静岡時代を回顧して更めて感一汐である。

(山田喜志夫)

五四回

五四季会は、今回は安東哲夫君にご登場願いました。ルポの時間もないままに原稿用紙を送って何か書いてほしいと頼みましたところ、早速次のような内容の玉稿をいただき恐縮しました。相変らずの律義で心やさしい安東君の一面を垣間見る思いでした。

なお、柴田(今井)君の静岡へ帰られたご挨拶を載せておきます。

(庵原)

○

お嫁ちゃんが来た

それは今年二月六日のことである。ねばりにねばった長男が三人

兄弟の最後になってようやく結婚を決意し、その式をあげたのである。しかも相手は明美といって二十才。勤め先のテニスクラブで知り合った仲という。長男は静岡の附属から東京の高校、慶大を経て現在の職場に落ち着いたわけであるが、親にとっては幼い時から誠

てから随分永いが、その間「僕は親と一緒に住めるような人に決めるんだ」とはよく口にしていたが、明美もそのことには何の抵抗もなかったらしい。しかも「まだ若くて何もできない娘なんだから一緒に生活して親にも教育してもらいたい」とのたまうのである。二月十四日新婚旅行から帰った



事によらず自分で決め自分で行動するたちで、はたから親をはらはらせることしばしばであった。そんなわけで大学、就職と皆自分で決め、今度もその手であるが、今から思うと私の言うことはいた

が、私は十四日から一週間出張の為成田空港からの無事に帰った声だけを聞いてすれ違い。三人の生活がはじまったのは二十日からになった。結婚前三、四度会って気にはいついていたのだが実際は生活を共にしてみないとわからないものだ。先ず明美の返事の可愛いこと、そしてその献身ぶりは全く脱

帽である。「亭主第一、親仁は第二」と私が言い聞かせるのだが耳には入らないようだ。料理はできない筈なのに毎日変った献立を考え一所懸命おいしい料理を、しかもいかにも美しく作ってくれるのは健気なばかりである。聞いてはみないが短い婚約期間に母上の指導がどんなであったかと想像しながら、いよいよいとおさが暮るのである。長男の帰りは毎日殆ど十時十一時となるが、私が朝六時に目を覚ますともう勝手に朝の仕度の音をさせている。二階から足音をしのばせて降りていらいしい。何も言わないのに私の夜具は何時ふわふわであるのは何ともありがたいことである。家内が親しくしていた裏の奥さんが明美の為にしゅうを教えて下さる。これも喜々として励んでいるようだ。お料理やしゅうの本がだいたいまわって食堂のテーブルの上に積んであるので、ある朝「食器棚の一面を整理してそのスペースを使ったら」と言うと、帰ったらちゃんとそのようになって、テーブルがきれいになっている。そして私が独りで生活していた家の中が一日一日ときれいになってだんだん新婚家庭らしくなっていく。この間、遠慮する明美を長男のテニスの合

宿について行かせようとする、
「まあうれしい」と言い出て行ったが、二日目に作ってくれてあったものがなくなつて味噌汁を作ろうとしたらもう味噌のある場所がわからない仕末。これからは私は家事からもすっかり解放され、書斎で自由な時間を過ごそうで幸せである。私はこのような嫁を長男と同じように「明美ちゃん」と呼んでいるが、誠に可愛いお嫁ちゃんである。

娘は神戸で三人の男児に恵まれた。川端康成の「山の音」の中で主人公の尾形信吾が「人の人生が幸せであったかどうかの最後のしめくくりは子供達の結婚が幸せであったかどうかである」と述懐しているが、どうやら私の人生は幸せであったと言えるようになるのではないかと最近つくづく思っている。ただ返す返すも残念なことは家内にこの幸せを味あわせることができなかったことだ。妻が亡くなって四年八月になるが、多忙な仕事に追われ一人で淋しさをかみしめる時間のなかったことを幸せとしているが、私が属している会社の句会で先般第三句集を作った際の私の句の中に亡妻に関する句が意外に多いのはやむをえないことであろう。拙い句であるが次に列べてみた。

この席に妻亡きことを二の替友の家亡妻手作りつ難に会う娘を想ふ妻の遺歌あり半夏生亡き妻にすまぬことのみ水引草除夜の鐘集ひし子らに母の亡くこれからは母好きだった子供達の幸せを念じつつ亡妻の心を心に秘めて残された人生を大切にしていきたいと思う。

× ×

去る一月二十九日仙台出張の折東北大学の長谷川房雄教授と楽しい一日を過ごしました。大変元気がしたが、往年の美少年を想い出すにはしばしの時間を要しました。

○ (安東哲夫)

春たけなわにて霞立つ候をむかえ皆々様にはますますご清祥の段およろこび申しあげます。さて私儀、去る三月三十一日付をもちまして泊江第四小学校長を最後に教育界を離れその任を終了いたしました。浅学非才ながら激動の四十年間を教育と共に歩み、任期を全うし得ましたことは一重に諸先輩並びに近隣各位のご支援とご厚情によるものと深く感謝申しあげます。これを機に思いつくまま住みな

れた泊江市をあとにして左記に転居いたしました。今後は野にあって斯道の発展を念しながら田園に一日の自由を求め、天命を楽しみたいと考えております。

退任にあたり、これまでの公私にわたるご高配に厚くお礼申しあげると共にご家中のご繁栄をお祈りしてご挨拶いたします。

昭和五十七年四月 柴田 久夫

転居先 〒四二六〇二
藤枝市時ヶ谷三沢一八二
電話〇五四六・四一・六八八〇

五五回

四年丁組
昭和十三年春のことだった。間もなく四年生にならうとしていた我々に、学校当局から次のような通知があった。

「本年四月から四年クラスに、四年修業時に上級学校を受験しようとする生徒を集めた一クラスを編成しようと考えている。希望者は申し出できるように」

四年修業で受験できる上級学校の代表的なものは、旧制高等学校(静岡なら静岡高等学校)である。当時は、大学進学熱という言葉もない時代で、両親が学があつて高等学校に入りたいと願っている

一部のもののほかは、至極のんびりしている時代であった。

高等学校の入試は相当むづかしいと感じていても、しかと考えたこともなく、二年、三年と二〇〇人中、二ケタ、三ケタのあたりをうろうろしていたため、全く関心は持たなかった。黙っている訳にも行かないので両親に話をすると、さすが商人、そんな結構なクラスができるなら、勉強するようになるだらうから申しこみなさいと、身の程しらずの御託旨であった。

どうしてこのようなアイデアが出てきたのか。当時考えようとしなかったが、今、想いおこすと新任の「天神さん」と呼ばれた校長先生が浮んでくる。(名前は忘れた。ちなみに、この校長先生は五年の修身の時間に、同じ内容を甲、乙、丙、丁の四クラスで講義すること合理化して、一週一回全員を広い講堂にあつめて講義をした。前の方にすわった人しか話ができなかった)

この校長先生が、ひとつ何か面白いことをやってみようと考えて提案し、さきほど述べたごとく、進学競争がさほどあるわけではないので、無害であらうと他の先生方も同意したのだらうと想像され

る。

「天神さん」は、或いは、英才が集って、切磋琢磨し、著しい向上が期待できる場（クラス）を願ったのかも知れない。或いは軽い気持ちで、トライしてみようとしたのかも知れない。

当時四年修業で、静岡高等学校に入学しようと、本気になっていた人は、二〇〇人中、一〇人もいなかったと思う。あとは、試験度胸をつけるために、受けてみようという類であった。（四年丁組から静岡に入った久米君を含めて三人だったと記憶している）

一〇〇番前後という中席も入れなければ編成できなかったためか又、大部分が、そのようなクラスに入れば、勉強するようになるからと親に言われて申しこんだためか、四年丁組は一部の者を除いてさして意気こんだ所もなかった。しかしクラスのレベルが或る程度高いので、これに引きづられてより勉強した人が多いと思う。これが大きなメリットかも知れない。

英語の試験（エシックス、フオ、ヤング、ビープル）の前で、訳本の日本語の部分だけを暗誦している友達をみてびっくりしたことがある。びっくりするような秀才もいたが、まあまあ普通の普通人

の多かった、トラブルの少ないクラスであった。

四年丁組の実験は、当時はこの一年で取り止めた。

特定の大学に是非入りたいという父兄は少なく、大学進学を考えていても、特に選ばなければ入学できた時代だから、この実験も大したトラブルもなく実行できたのであらう。のんびりした時代に一寸変わったアイデアを持ちこんだ面白い試みであったと思う。

（齋果英策）

六〇回

古きよき時代

私が生れたのは昭和二年、安部郡大里村であると亡父から聞いている。「大里村」という地名からはいかにも田舎の風情が感じられるが、実は現在の静岡駅の南西約一軒の馬淵町界隈のことのようにである。

当時、父は県庁の役人で、静岡国道、すなわち現在の一号線の静岡・清水間の建設工事に従事していたよう、おかげで「清夫」と書いて「静夫」と発音しなければならぬ、まさに当字否誤字に類するような名前をいただくことに相成ったしだいである。友達は「しずお」とは読めないから、皆「き

よお」「きよお」と呼んでくれるが、最近ではこの呼名には言訳や反発をしないことにしている。

今から二十年程前に、私が防衛庁から気象庁の気象大学に国内留学を命じられたことがある。気象学の権威と達清夫先生が学生名簿を見て、「私と同じ名前の者がいるが、君も『きよお』と発音するのか」という質問をいただき、「はい」と答えてその場をつくらった積りでいたが、以後教室で何かある度ごとに指名をいただくという大損害を被った昔が思い出される。

名前についての思い出で、話が若干横道にそれるが、復員、復学後の学生時代のクラスメートに「大金充」という友達がいる。一度聞いたなら誰もが絶対に忘れない名前である。現在、水産会社の重役さんで頑張っているが、大金が充満する程富み栄えて欲しいものと友人の発展を祈念している今日此頃である。我が六十回もぼつぼつ孫の出生の始まる年令に達してきたが、私のこの記事を是非ご参考にしたい。将来お孫さん達から最低限恨まれることのないよう命名には十分ご注意いただきたいものと念願している。

前置きが十分長くなってしまっ

たが、私の出生地大里村での記憶は全くない。物心がついた頃はすでに森下町（現在の大和町）に移り住んでいた。八幡山の北側、東海道線の南側という下町が我が揺籃の地である。

久能街道沿いから付属小学校に通った男子の同級生は、有東金剛寺の現住職、森下博君ただ一人、幸いにも双葉幼稚園から一緒であったため子供心にもよくウマが合うというか、多くの場合行動を共にしていたことが思出される。

登校時は久能街道から静岡国道へ、松坂屋前から御幸通りを経て葵文庫横から校門にたどり着くというのが通常の経路のように覚えていた。

雨の日も風の日も、夏でも冬でも、不平も泣言も言わずに毎日ランドセルを背負って大通りを右に左に、行きつ戻りつしながらよく歩いて行ったものである。今の子供供否、大人でも歩かない程の道のりである。特に森下君、有東からという一寸した遠足並みの距離をまことに苦労様でしたと、その労をねぎらいたい気持ちになる。もっとも、定期路線バスもあったようにには覚えていないしタクシー等に乗るなどという大それたことは子供にはとても考えもつかないほ

ど、質実を絵に画いたような時代であった。

帰りのコースは実に不定で、往きと同じ経路をとることもあれば日によっては「監獄」の横（今の歯科医師会館のところ）から水落に出て、鷹匠町から南下して久能街道へと抜けて帰ることもかなりあった。

丁度二年生の冬の日のことだったように思う。寒候期には外濠の水位が下がるために、水落の水門は閉ざされていることが多く、その日も堰止めされていた。たまたま直ぐ近くの道路上のマンホールの蓋が開いており、二人は相前後してそのマンホールから下水道へ闖入して行った。もっとも二人のうち的一位はインシヤティブをとっての行動と思われるが、今にして思えば、当日の発起人は私であつたか森下君であつたか全く覚えが無い。もちろん、ランドセルを背負って、靴はいたままである。当時の付属の制服は男子は半ズボン、貧富にかかわらず皆皮靴をはいていたからまさにそのまゝの入水ということになる。

下水道の中は暗かったが、それでもどこからともなく地上光が差し込んできており真暗ではなかった。おおもとで水を堰き止めてあ

るから、水の流れはチヨロチヨロといった程度で、所どころに大きな水たまりができており、そこには必ずといってよい程、大きな鯉や鰻が背中を半分くらい水面から出しているのが見かけられた。我われの突然の足音に驚いて水たまりの中を泳ぎ廻る光景に、子供達の好奇心はしだいに高まっていた。時には大きな鯉にも出くわしたが、これら体長二、三十種もある大物では子供達ではどうすることもできず、さすがの森下君も手づかみで持ち帰ることはあきらめたようである。

これらの魚族に元気づけられて二人は下水道を一路下流に下っていった。大分歩いたと思った頃、丁度マンホールの蓋が開いているので、一寸地上を覗いたらそこには勝呂組の建物が見えたように覚えていた。このまま行軍を続ければ多分久能街道の下水道に通じるだろうという子供達の土地感に従って南下を続け、最終的には稲森味噌屋の付近のマンホールから地上に復帰して、一応行程一軒余の当日の下水道行脚を終了した。

半ズボンはびしょ濡れ、尾錠のついた黒い皮靴はふやけてしまつて履くに履かれず、靴をぶら下げて裸足で家に辿り着いたが、貧乏

役人の妻女たる我が母親は子供一人くらのことに構っている程余裕が無かったのか、別にとがめられるということも無かったように覚えていた。

これで私のお話しは一見落着いたわけであるが、ただし、この度の森下君と私の行動は二人だけの秘密として一切口外はしなかったし、また同じことをくり返そうという誘いはお互にしなかったようである。

思うに、子供心にも、やはり暗闇の地下の一本道でぞくぞくと身に滲みて味わった恐怖感に十二分に懲りたからであらう。

以上のことを振り返ってみて、次の三つのことを申し述べて私の話を終ることにしたい。

第一には、子供は親の知らないところで、親が全く予想できないような危険を冒すことがあり得るということである。

もし、水落の堰が何かの都合で開けられたとしたら、二人は下水道の中で水流増加によってかなり苦しい行脚を強いられることになるわけで、大人になった今では、堰が絶対に開けられないという保証のない限りとても実行不能な仕事であらう。

第二には、「強く」……本音で

は「悪く」と書きたいところだが……「たくましい」人間形成が自然のうちに育たれていった時代に子供として育てられたことを幸福に思っている。

今日のような教育ママさんに追いつかれないことなく、いわゆる「悪童」として自由な人間形成の場と時間が与えられたことは物質的な豊かさ以上に貴いことではなからうか。

第三には、昔の下水道の水は確かに綺麗だった。今もう一度あの道を辿ってみたいという気持になるが、果して地下の行進に耐えられる程の水質であらうか。鯉や鰻や鯰も元気に生息してくれているだろうか。(渡辺清夫)

六六回

66期関東同期会の報告

この季節には珍らしく冷たい氷雨が降る十一月六日の夕べ、気温の低さを吹きとばすように、熱気盛んなわが期の関東同期会が、新橋の「太平洋」で開催されました。幹事の労をとられたのは田中俊男、山下智康の両君です。

在京の同期生六十八人のうち、社用・私用をさし繰って十七人が馳せ参じました。乾杯のあと、一人ずつ近況を自己紹介。かつての

紅顔の岳南健児も、経てきた世の星霜をうつして額にはシワがより頭はうすくなりしましたが、社会でも家庭でも、一番責任が重い年頃です。そうでなくとも昭和ヒトケタ族は受難の世代とか。それぞれ置かれた場所で精一杯奮闘している様子が、皆さんのお話からうかがわれました。それにしても何とまあ、一人一人の性格は昔と変ら

ないことか。声が大きかったヤツは今でも大きいし、そっかしかったヤツはこう云った席でもお鏡子を蹴飛ばすし。次第に夜がふけ話題が自分自身のことを離れてわが子たちの自慢に移るころ、幹事の勧誘で記念写真におさまリ、固く再会を誓い合つて閉会となりました。(村松武司)



前列 向って右より 田中、大坪、辻、尾入、村松、
早見、安池 中列 山梨 後列 馬淵、菊田、湯浅
杉村、海野、加藤、山下、武藤、田村 於新橋「太平洋」

六八回

久しぶりの関東六八期会が、去る十月二十三日半蔵門会館で開催され、出席者三十数名に、静岡から会長の菅野寛也、大石博、織田

広、一瀬守哉さん達が参加してくれ、賑やかな楽しいひとときでした。そろそろガン年令、昭和一桁

血管が弱いなどと脅かされている世代の私達にとって、心強いのは

医者が多いことです。眼科では日本一、マスコミでも大活躍の帝京

大学教授の丸尾さん、東邦大学病院副院長で体重ともに立派になら

れた森下さん、北里大学医学部助教授で、ロマンスグレイもステキ

な外科医の大場さん、歯のことならまかせてと、東京都養育院口腔

外科医長の渡辺さんなど、全員の自己紹介で、活躍ぶりから健康管理

なこと、つきない昔話に、短い時間を恨みつつ、次の再会を約した、楽しい楽しい青春ふたたびの一夜でした。
(荒谷じつ子)

七〇回

日脚が延びて、初夏の青風が心地よく吹きはじめた昨年の今頃、

築地「スエヒロ」で催された同窓会が散会したあと、そのままではい

いかにも別れがたい風情の七〇期の面々一四、五人が、いつものよ

うに屯して銀座の街並へ向った。手頃な店を二、三軒あつてい

るうちに、客がひとりも入っていないスナックがみつかり、カラオケ

を抱えて、まるで貸切のような騒ぎになってしまった。そのうちに

この弛緩した悦楽の機会を、又すぐに持とうという話になり、その幹事役を川端正良君(東急観光)

の良き日(土)に、赤坂の東急会館で催され、二八名が参加した。関東の同期会は、たぶん六回目くらいになるはずで、これまでに私は二回欠席している。宴会に入っ

てしばらくすると、司会者川端君の渋い名調子で、何にかこつて、

がはじまった。私も、一番遠い所(甲府)から出席したという理由

にならない理由で、挨拶をさせられた。こうして同期の連中と飲む

酒はしだいに遠慮をなくさせて、ここだけでしか味わえないほどず

ばらしい酔心地にしてくれる。酔宴は佳境になり、女性ヤング歌手

によるアトラクションがはじまった。これは、常任幹事の中馬敏雄

君(佛フジフレイト・インターナショナル)のはからいであつた。彼の事務所がある浜松町貿易セン

た。そのうえ、目の前でサインしてもらった色紙を抱きこんで、なお上機嫌になり、後援会を結成しようなどと言いだすファンまで現

われるしまつた。昨年の八月から、転勤のために甲府で生活することになってみ

て、なにかにつけて、三〇年近くも過ごした東京より静岡と比べる

ようになってしまふのは、距離が近くなったためばかりではないよ

うである。スーパーで買物をして

いる客と店員のやりとりやスナックで飲んでいる客同志の会話など

を聞いていると、方言や抑揚、静岡へ戻ったような錯覚を受ける

ほどよく似ている。甲府は盆地といつても、南側に海岸がないだけで、

うだ。山梨人には、土着的な確固たる沈黙した気質が感じられる。静岡市安東で生まれ、安倍川の畔で育つて以来、東京の大森、中

野、武蔵村山そして高島平、はては甲斐の国甲府と、いくたびか住

居は移り変わったけれど、それらの家々の窓やベランダなどから、

遠近、大小はあるが、富士山の容姿に絶えず接することができ

た。静岡のグランドから眺めた富士を巡って、私の人生は統

くようである (松浦洋一郎)

八七回

回想

静岡を離れてもう十一年が過ぎた。帰省するのにも年に二、三度、

最近帰るたびに、街が変わってきている。ビルが増え、信号も多

くなり商店街も新しくきれいになっている。十年一昔とはよくい

たものである。実家に近づくにつれ昔の面影も少しずつ増してほ

と安堵することである。帰る回数が少ない割には、静岡付近

にはよく行ってみたい。学校は

あまりよく変わらない方が、我々

には親近感をもたせてくれて有難

い。先生、生徒は変わってもふとな

つかしさを感ずる。私など卒業し

てからそんなに年月は経っていない

が初恋の君!

いが、高校生活の一場面一場面をよみがえらせてくれる。

思い出すのは、体育祭の仮装行列、高三時の夏の甲子園出場である。どうしても静高を訪れると、私が好きな事もあるがグラウンド上の事が想い出となって残っている。毎年体育祭で恒例の仮装行列はいろいろ知恵を出しあつての成果なので、すばらしいものが多いつかあつた。在学中に印象深かつたのは「将棋倒し」これは私が一年時の優勝作品だつたと思うが、出来るまで何を作っているか、はつきりせず体育祭の前夜その何物かを立たせて（それは校舎の三階位までであつたと思われる王将だつたのだが）当日見事に小さな駒からその「王将」まで将棋倒しを完成させ、その倒れた時の砂ぼこりとスケールの大きさに当時下級生であつた私はただ感心したものであつた。他にも大きな熊が印象的だつた「アイヌの火祭り」、那須与一を扱つた「凱風快晴」など良い出来栄えのものがいくつも頭に浮かんでくる。手前みそになるが高三時に「鷺舞い」で私達の組が優勝した時は、男子がダンボール集めから鷺の作成、女子が白い着物を縫ひ紫のはち巻を作り、クラス全員一致団結した結果だつた

ので、その喜びは今も忘れられない。そこには、高校生らしさがあふれていたような気がしてならない。なかなか大勢の人間が一つの目的に向つて協力する姿は見られなくなつてきている。この静高伝統の仮装行列はずっと続けていてほしい。良い思い出になるに違いない。

学校の角のバックネットを見る

と高校野球。いまでも練習、或いは試合になるとバックネット裏に多くの静高ファンが集まり野球談議に花を咲かせている。私も静高へ入れば在学中に必ず甲子園に行けるということに楽しみをしていて、三年の春までもう一步のところが出場をのがしていた。もう見に行けないのではとの思いがあつたが、高校最後の夏に約束どおり実現してくれた。レギュラーの大半が三年生なのでクラスにも何人か野球部があり、かれらが頑張つて出場できた時は応援する私達にもうれしかった。予選の一戦一戦に一言一憂し受験を控えた夏なのにそれを忘れさせるほど興奮した事を覚えていて。甲子園では惜しくも初戦負けしたが、例の「又来いよ」という声援を肉声で聞いた時は、甲子園の良さを痛いほど感じた。とても熱くさわやかな夏

だつた。卒業した今でも静高野球部の成績、選手は気になっているし今後も甲子園には何度も出てほしいと思う。

とりとめもなく書いてはみたが所詮ノスタルジーを強く感ずる文章になつたことは否めない。そういえば、もう今年で私達の代も三十路を迎える。今様にいうならば「我が青春のグラフィティ」の一部を語つたことになるのか。忙しく現在を生きていると、こんな瞬間を必要とする時があるんだなと思う。折りしも、タイガースがTVに再び映り、サイモンとガーファントルの日本公演が満員の盛況とか。当時の同窓生の顔が何人か浮かんできた。あいつはどうしているんだらう。富士のお山とともになつかしい。

(水上浩司)

江の島会

前進の為に

長い伝統と実績を誇る神奈川支部江の島会を更に発展させる為の役員懇談会が去る二月七日(日)正午から古都鎌倉の小町園で開かれた。

立春以来冷雨、粉雪、曇、寒風と悪天候続きであつたのに当日は朝から快晴。典雅で閑静な小町園

の庭の色彩やかな紅梅やふくよかにはころびた福寿草がぽかぽかと暖かい早春の日射しを存分に浴びて、小人数による懇談会の雰囲気はいやが上にも和ませてくれた。

前会長(名誉会長)の永野清氏(35)をはじめ、顧問の岩崎康・岩波信平・宮崎忠輝(以上42)今井志郎・西沢純三(以上43)諸氏のご参加を仰ぎ、会長村松直(42)副会長月見里得知郎(53)監査井出多米夫(42)常任幹事内田武男(59)奥沢徹(59)黒田秀幸(67)関口登(68)滝井弘子(78)の面々——(71後藤弘枝氏は欠)

は、すばらしいフランス料理に舌つづみを打ちながら、昨年九月五日(定例総会)は毎年九月の第一日(日)に行なわれた総会の反省をはじめ、本年九月五日(日)に開催される総会の企画や出席会員倍増策その他話に花が咲いて時の経つのも忘れる程であつた。会場の都合で夕刻には散会せざるを得なかつたが、久しぶりの顔合わせでもあり、質・量共に飛躍の発展を願う話し合いの機会としてはまだまだ時間が足りないもので、第二会場さがしに駅前の方へ足を向けるのであつた。

(村松記)

歌作三昧

42回 村松 直

○朝に日に宵に

見惚れて去りも得ぬ

三春の里の流桜かな

○来て見ませ

つづらなる実がと呼ぶ妻の

瞳に映ゆる梅の木洩日

○思ひどち

甜酒酌まむ桜花の宿

○花冷えや

友の招きの今日も無く



謎解きの随想

40 回野崎操一氏の著書「心の軌跡」から

編集委員 月見里 得知郎

前回は、竜安寺石庭及び吐月峰柴屋寺庭園と星座のお話でした。今回は、銀閣庭園と飛鳥酒船石のお話です。

月の銀閣庭園の秘密

東山文化の中心は東山山麓に在る慈照寺、「我庵は月まつ山の麓にてかたふく空のかけをしそ思ふ」と足利義政が詠じた山荘である。慈照寺の名を高からしめているのは銀閣と庭で、月の庭といえは、名月下の銀閣庭園を指すことになっている。

慈照寺の庭に関する庭園研究家の解説の代表的なものは、重森三玲氏が『林泉』四七号に、「名月の銀閣寺庭」と題して述べている実験談であろう。「一休銀砂灘や向月台が、月夜にどんな効果をもっているものだろうか。月夜の美を表現した筈のそれ等の構成が、果してどれだけの効果をもっているかは、多年銀閣寺庭園に興味を

もっている私にとっては、常に実験したいものだと思つてゐた。：月待山の山畔は黒を流した様に真黒である。庭の東部も南部も勿論真黒である。真白に浮き出された此寺の向月台や、銀砂灘の景観は、全く夜の庭としての新意匠であることが、今更の如く感ぜられる。……銀閣楼上から一覽すれば、特に向月台が、上部の円形のみ浮き出して来て、その周囲が暈した雲の如く、即ち雲の中から明月が出て来たと言ふ感じである。そして銀砂は松の木陰に一層白く光つてゐて、潮水が横たはつてゐる様である。その反対に、池水はまるで濁つて泥海の如く感ぜられ、夜の庭としては全く向月台と、銀砂灘のみが王座を占めてゐる。」と表現している。

慈照寺の庭園が作庭当初のままではないにしても、基本的な構成に大きな変貌はなかったであろうし、月の庭の構想は一貫していると思う。月の庭として今日まで存

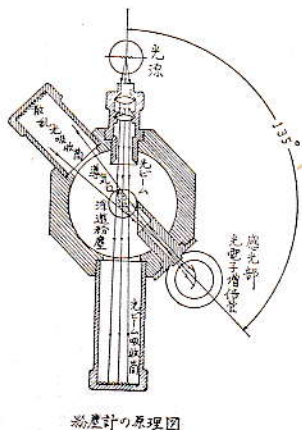
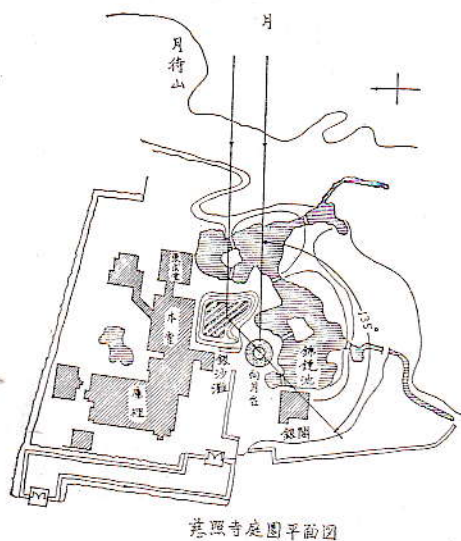
続した理由は、その地勢にある。東に急斜面の月待山が屏風を立てたように聳え、水は集つて泉となり、小滝となつて池水を湛え、月光を受け入れる庭園を形成している。同じ月の庭でも、連歌師宗長の作庭にかかる九子の柴屋寺庭園はやや趣を異にする。東に吐月峰を控え、周辺は竹林に囲まれ、山麓より湧き出る清水を七星の池に導いているが、白沙は用いていない。吐月峰の山の端から、ポツと吐き出される月を眺める月見の庭であるのに対して、銀閣庭園の方は、月はさながら霜夜にてと謳われそうな、月光の庭と言えよう。

しかし、慈照寺の庭園が月の名園である秘密について述べられたことを未だ聞かないが、光の原理から見れば当然な構造を、作庭者は既に取り入れていたことに気づく。暗黒の中で粒子に光線を照射し一三五度の角度から見る時、輝度が最大になる現象があつて、空気中の浮遊微粒子の濃度を測定する粉塵計は、この原理を応用している。天体では宵の明星と明けの明星に最輝の現象を生ずることや、身近な例では、雨戸の節穴から暗闇の室内に射し込む日光のビームに、浮遊塵がキラキラと見えるのも同じ理由である。

向に築かれているから、その方向と月の出の光が白沙の造型を照す方向とは、まさしく一三五度をなすことになる。東は山陵、北と西は古建築、南は樹林、池には山影が沈み、地上は黒土のために散乱光を全て吸収してしまふから、白沙のみが最輝となり、富士山形と波形に珠玉をちりばめたように燦然と輝くのである。

貴族的武家文化といわれる幽玄な東山文化を象徴するのに、月光の芸術を創造したのが銀閣庭園である。そして、そこに現出される光明世界には、光の原理を巧妙に採り入れた秘密が蔵されていると解して、まちがいないであらう。

酒船石は飛鳥天文台



飛鳥は北緯三四度一七分にあ
り、この地点での日の出の方角は
夏至には東北へ二九・三度、冬至
は東南へ二八度、春秋分は東北へ
〇・六度であつて、酒船石の二本
の放射線の角度約二九度と符合す
る。南側の斜線を東方に見通した
方角の東から北寄り二九・三度、
八釣山の西鞍部から日が上れば
夏至。中央主線を東方に見通した
破裂山頂方向から日の出を見れば
春分または秋分である。北側の斜
線を東方に見通した方角の東から
南寄り二八度、岡寺の右の山肩か
ら日が出れば冬至で、この日から
日脚は一日毎に伸びて春が近づ
く。円形の皿に至る枝線を見通し
た方角は北で、夜は仰角三四度
に北極星を見つけることができ、そ
の周囲を北斗七星とカシオペアが
時計と反対廻りに、空の大帝計の
ように一日一回転している。

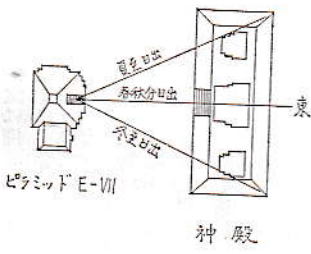
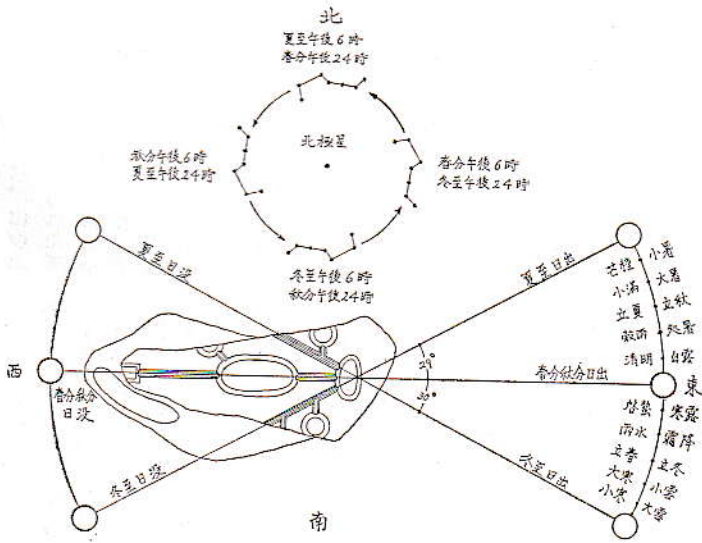
太陽を直視するのはまぶしいの
で、皿に水を注ぐと、彫り込み部
分全体に行きわたり、皿は水鏡と
なる。太陽の映像の直径は視距離
の約一〇〇分の一であるから、三
メートルの距離からは三センチの
大きさに写る。放射線の上に至分の
太陽像を大きく三個画いて輪廓を
とると胎形ができる。天象観測に
水は必須条件ではないが、北欧諸

国の間には夏至の日に水の祭が盛
んに行われることから見ると、酒
船石でも水の祭祀が催されたのか
も知れない。幾何学模様の内、直
線部の影刻は合理的なもの、皿と
水は非合理的なものに用いられた
のではないか。合理性と非合理性
の組合せによって、一見不可解な
造形を遺しているのである。

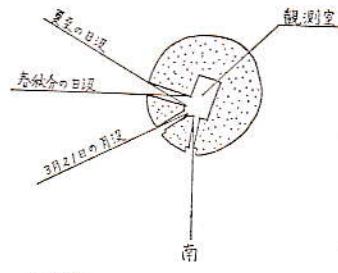
外国の古代遺跡では、中米マヤ
に大規模な二至二分を測った天文
台がある。マヤは紀元三〇〇年か
ら八〇〇年頃まで続いたらしいの
で、わが国の古墳時代前期から飛
鳥を経て奈良時代までに相当す
る。日本民族が稲作であるのに対
しマヤは玉蜀黍栽培で共に太陽の
恩恵を大いに受けた民族である。
マヤの文化は古拙文化・巨石文化
と言われるが、天文、暦数、象形
文字に優れていた。チチェン・イ
ツァーの天文台は石積円形の建

造物で内部に観測室があり、三個
の窓の端から日没を観測して二至
二分の日を求めた。またワシヤク
トゥンの天文台は、ピラミッドの
階段の中段中央から向い側の東方
にある三棟の神殿の屋根の左端、
中央、右端の方角からの日の出を
観測して二至二分の日を定めた。
英国ウィルトシャーにあるストー
ンヘンジという環状列石は紀元前
一八四〇年頃の巨石記念物である

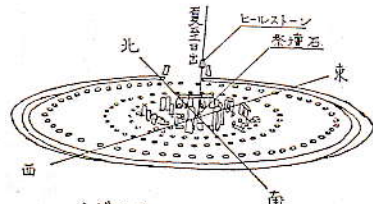
が、夏至の日の出の光がヒール
ストーンを通り中央の祭壇石に照射
するように出来ている。
酒船石が日時計かどうか。もし
日時計ならば、グノモンと称する
示影計の痕跡があるはずだが見当
らない。また半球状に石をくりぬ
いたスカベという受影鉢があれば
太陽の影によって時刻を知ること
が出来るが、酒船石の彫刻は浅い
皿であるから日時計ではない。或



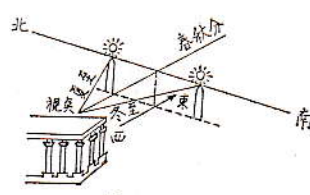
マヤ
ワシマクトゥン天文台



マヤ
チチェン・イツァー天文台



イギリス
ストーンヘンジ



エジプト
ヘリオポリスのオベリスク

はベレキノンと名づける夏至線、春秋分線、冬至線および放射状の時刻線が刻まれていれば日時計となるが、それらしい彫り込みも見られない。

要するに、酒船石が謎の石と言われるのは、一基の巨石に不可解な幾何学模様が彫刻されているためである。その彫刻の解釈によって、流体に関する生産設備と見たり、奇異な宗教的な施設と憶測されるのである。しかし古代にあったのは、物を造ることは賤の業で高貴な階層が関与するはずのもではない。それはその時代に重要な役割を果たした政治的施設として、天文台とは考えられないだろうか。それには、春夏秋冬の訪れを民草に知らせる二至二分の観象が酒船石によって可能かどうか実証する必要がある。

飛鳥時代は文化的には、石室石棺を主体とする古墳時代に続く巨石古拙文化が底流をなしている。この巨石文化は外国ほど雄大ではないが、その後、磨崖仏、社寺の礎石や石段、城郭の石垣として時代の変遷とともに現代につながり、石造美術として見られるが、酒船石の模様は特異である。その彫刻は必ずしも工芸的観賞価値の高いものではなく、形象が科学的な

ころに秘密が隠されている。そこで夏至の日を選び、日中、日没、夜中、夜明けにかけて、幾何学模様の東西南北の方角、直線の交わる角度を実測し、夏至の日の出・日の入、北極星の位置を確認した。夏至が適合するので、春秋分冬至も狂いのないことは明らかである。

大和国高市郡には隋や百済から技能工が早くから渡来していたこと、観測のような学僧が天文暦数をもたらししていたから、それらの知識を移動変形しない巨石に加工させて、政治的に利用したのであろう。天武天皇の占星台は藤州の瞻星台に類するものであっただろうから、酒船石を直ちに占星台と見るのは早計であるが、少なくとも

訪中十日間

宮崎 忠 輝 (42回)

日中両国は古来より賢聖の交流から世界に冠たる東洋文化を創造し、現代に至っても風俗習慣を同じうし、その間に起った戦争という不平常な状態も両国の間に平和友好条約が締結され終止符を打つと共に、今日のような幾多の輝しい友好善隣の基盤を醸成し、各分野に亘って交流が促進されて居

も二至二分を観象する施設として飛鳥朝の天文関係の遺物が残っているようなものである。東西方向の主線と南北に二九度傾斜している放射線の意義は、他の諸説では説明できない。世界的に見ても、同世紀頃、マヤ民族が堂々たる石造の天文台を所有していたのに対し、人類の創造の同時発生性を認めるならば、飛鳥に巨石古拙文化の一つとして、酒船石が天文台であったとは考えられないだろうか。飛鳥の統治者は土着の農耕民に舶来の天文学的な農政指導を実施することによって権威づけ、多収獲多収納の共存の利益を計ったであろう。それが酒船石の存在意義なのである。

このような背景をふまえて、今回日中文化交流協会、朝日新聞社のご指導、ご後援により全日本高年齢剣友会有志の訪中武道団の結成を見、彼我共々武道の真髄を披露し合い、武道を通じてお互に交流し正しく理解し合い、真の友好の為に待望の訪中実施となった。

参加人員剣道及び銃剣道六〇才以上八十四才まで三十四名、なぎなた道七名、付添団長以下六名総勢四十七名全国各地より参集し、昨年九月二十日成田空港九時三十分出発十四時二十五分北京空港に着陸した。

空港より北京市内に通ずる二十七軒が舗装された一直線の立派な道路で、両側は柳、ポプラ、アカシヤ等の並木が延々と列をなし、新生中国の一端が見受けられた。まもなく、郊外の新装式階建の燕翔飯店に到着、三泊の予定である。夕食後北京東城区武術協会役員の方々と北京中心部の東長安街体育館に於ける双方の公開演武の順序、其他細部について打合せを行った。

翌二十一日、買物は終戦後日本での占領軍に対するようなもので軍票ならぬ外貨兌換券で支払わねばならず、日本と中国の戦後の三十数年の違いを肌で感じさせられた。本日の一円との換算率は一三六円一六銭であった。

午前九時、バス式台に分乗して北京動物園のパンダほか市内見物に出掛けた、人口九百万といわれ中華人民共和国の首都にふさわしく主要道路は八十米から百米に幅広く舗装され、両側には美しい並

話題のスペース
(明治通りと大久保通りの交叉点)

レストラン・モ ア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土屋 晃 康 (67回陸上)

TEL 03-208-2931・204-1251
東京都新宿区大久保 2-1-3

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ

伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石 橋 正 秋

取締役支配人 安 田 正 弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1
TEL 0558-76-2401 (代表)

木が植えられて居り、人民大会堂・博物館をはじめ、北京新駅、放送局、文化館、民族飯店等大建築が建てられ、近代都市としての北京と古い中国の文化遺産を今に伝える古都としての北京として目をみはらせるものがあつた。一応ホテルに帰り、一同演武の服装に着換え体育館に向ふ。

十九時、会場超満員のうちに開会。相互に代表挨拶の後、日本側より日本古武道年鑑他参考書贈呈すると共に、剣道、銃剣道、なぎなた道についてその概略を通訳を通して説明し、演武に入る。

先づ日本剣道の形、銃剣道の基本及演技、裂帛の気合で相手を屈伏させるなぎなたの演技を披露し、最後に紅白に分れて剣道の模範試合を行った。観衆は終始熱心であり盛んな拍手が起つた。その後で高齢の方々による中国武術の短剣、昆吾剣、他二十種の流派による演技が行われたが、武術と拳法と舞踊を一つにしたような激しさ、リズムカルな武術を目のあたりに観ることが出来た。共に東洋武術として、その淵源ではつながらりを持ちながら現状は相違するが、更に深くほりさげてゆけば武術としての共通点を発見することが出来たと云う思いがした。

翌二十二日、团长及七十才以上の老剣士のみにて、訪中に際し大變御世話になった日中友好協会副会長孫平化先生を訪問、御礼の御挨拶申し上げ、日本武道史他参考書十冊贈呈、今後、より一層の御交流に力を添えられるよう御願ひ申し上げた。先生は東京大岡山の工業大学を卒業されており、日本語は流暢にて、好感のもてる好紳士であつた。

続いて北京日本大使館に蓮見義博参事官を訪問、御礼と今後の御協力御願ひ申し上げたところ、小生剣友（東京国学院大学卒業）豊田正先生に高校在学三年間教えを受けた由承り大変なつかしがられ名刺に添え伝言承つた。なほ、大使館内体育館で小学生の御子息に剣道を指導されてる由、吾々一同心強く感じた次第である。中国の人口は十億になんなんとし、待業青年（就労待ちの若者）が多いので、新婚姻法による晩婚奨励と一夫婦一子政策がとられている。若い男女は共働き結婚が普通で、子供の世話に幼児園や託児所のほかに、おじいさんおばあさんの役割らしいとのこと。男は六十才、女性には肉体労働者なら五十才、知識階級なら五十五才で停年になる。そして停年後も在職中の給料の七

割から八割の年金が支給され、企業退職者なら年金で充分暮らしてゆけるが、しゃにむに人口増を抑えようとする一人っ子政策が、いずれひどい老人社会を生みはしないかと云うことだった。

一同合流北京駅より観光客専用の特別列車（軟座火車）にて八達嶺駅に向ふ。向かい合いのゆつたりした四座席のテーブルの上にはお茶葉が入った大きなフタ付の湯呑がセットされていて、客が席につくとマホービンを持って廻り熱湯を注ぐ。お茶の葉が沈んだところを飲み、なくなると又注ぎにくる。その間ボーイが売り子に早変わりして、書、絵などをはじめ土産物を売り歩く。車中の食事はぶ厚い肉、タマゴ、果物、マントウなどが入ったポリニーム弁当で、その上、ソーラン節、其他民謡も流れるサービス振りであつた。

万里の長城まで八達嶺駅より徒歩十五分にて到着。全長六千軒におよぶ大城壁で、高さ約九メートル幅は四乃至六メートル延々まさに雄大そのもので、秦の始皇帝の偉大なる力にただただ驚きの一語あるのみである。

帰途、南口駅より二台のバスに分乗、明朝十三代にわたる『明の十三陵』を参拝した。なかでも堯

掘された定陵の地下宮殿の壮麗さ。壮麗な此の宮殿の中で贅美の一同を驚かせると共に、金冠、鳳冠、玉帯など、ため息が出そうなものばかりであつた。二十三日は、金朝以来八百年にわたって、歴代の皇帝の行宮であつた北京最大の公園頤和園に遊んだが、広さは四十二平方キロ、その四分の三は西湖を模した人工の昆明湖が占めており、湖畔から万寿山の頂上にかけて五十以上の樓閣が建てられ、それをつないでおる七百メートルに及ぶ長廊の天井や梁、欄干には極彩色の花鳥、山水の絵が描かれて居り、壮麗そのものであつた。これより国家的行事のすべてが行われる天安門広場に向ふ。百万人の大集会可能と云うだけであつて、誠に広大そのものにて、その南の正門で壮嚴な天安門は、明朝街。男性は何所でも同じ濃紺の中国の歴史を、だまつて見まもりつづけて来た古い中国と新しい中国を象徴する存在と云えよう。広場より北に向くと明・清時代の皇帝たちが住んでいた故宮がある。中国に残つてゐる最も大きな最も完全な歴史的建築群で、京都御所のほぼ七倍の規模を持ち、その周囲に幅五十メートルの濠と、高さ十メ

ートルの城壁をめぐらし、東西南北四ツの門により市内に通じている。壮麗な此の宮殿の中で贅美のかぎりをつくしてゐた歴代皇帝たちの暮らしもうかがえた。広場或は路上では、毎朝薄暗いうちから男女老若の別なくジョギングや大極拳等一人或はグループで自発的に励んでおり、自己の健康処理に努力してゐる光景が何処へ行つても見られた。現在の中国は外貨獲得の一環として積極的に観光事業の拡大に力を入れて居るが、受入施設の一つであるホテルが不足の爲め各所に建設が鋭意進められている。通勤者の自転車、洪水、警笛を鳴らしながら疾走する二輦連結のバスはどれも満員。夜は自転車は全部無灯、数少ないタクシー、トラックは尾灯だけで走つて居り、省エネに徹底した暗いから現在に至る六五十年間の中国の歴史を、だまつて見まもりつづけて来た古い中国と新しい中国を象徴する存在と云えよう。広場より北に向くと明・清時代の皇帝たちが住んでいた故宮がある。中国に残つてゐる最も大きな最も完全な歴史的建築群で、京都御所のほぼ七倍の規模を持ち、その周囲に幅五十メートルの濠と、高さ十メ

ートルの城壁をめぐらし、東西南北四ツの門により市内に通じている。壮麗な此の宮殿の中で贅美のかぎりをつくしてゐた歴代皇帝たちの暮らしもうかがえた。広場或は路上では、毎朝薄暗いうちから男女老若の別なくジョギングや大極拳等一人或はグループで自発的に励んでおり、自己の健康処理に努力してゐる光景が何処へ行つても見られた。現在の中国は外貨獲得の一環として積極的に観光事業の拡大に力を入れて居るが、受入施設の一つであるホテルが不足の爲め各所に建設が鋭意進められている。通勤者の自転車、洪水、警笛を鳴らしながら疾走する二輦連結のバスはどれも満員。夜は自転車は全部無灯、数少ないタクシー、トラックは尾灯だけで走つて居り、省エネに徹底した暗いから現在に至る六五十年間の中国の歴史を、だまつて見まもりつづけて来た古い中国と新しい中国を象徴する存在と云えよう。広場より北に向くと明・清時代の皇帝たちが住んでいた故宮がある。中国に残つてゐる最も大きな最も完全な歴史的建築群で、京都御所のほぼ七倍の規模を持ち、その周囲に幅五十メートルの濠と、高さ十メ

時より三十分軽く朝稽古を行ふ。

緑樹も多く、空気は清純にて、汗を流した後は、すがすがしく言葉では言いつくせない爽快そのものにて、剣のみに生きる者の醍醐味といえよう。杭州人口百万人と云われ、扇、絹織物、錦織物が特産といわれ、市街地主要道路の両側は、並木樹プラタナスが延々と列をなし、昼なほうす暗いほどである。二十四日は、錦織物工場、漢方製薬工場、茶園及製茶工場を見学。特にロンチン茶は日本茶に似て香り、味も一入優れ好評であった。工場は三交代制で、之も、失業者を減らす為に行つてるとのこと。職工の給料は平均日本円で一ヶ月六千円位、衣食住費は特に安く、家族四人で生活はらくに出来る」と説明された。

二十五日は、周囲十五キロもある美しい西湖で遊覧船で楽しみ、西岸にある禅宗のお寺靈隠寺、別名雲林寺を参拝。本堂には高さ二十四メートルの大仏像が安置されていた。二十六日、西湖十景のひとつ柳浪聞鶯公園を訪ねた。園内にある『日中不再戦の碑』は、日中戦争の際、杭州を攻撃した柳川兵団の故郷である岐阜市と杭州市が、永遠の日中友好を誓つて一九六〇年建てたもので、何かが胸に

ささるおもいで最敬礼をした。

十六時三十分杭州駅発列車にて上海に向ふ。両側には桑の木、麻が最盛期であり、稲も黄色味をおび刈取りも最近に思われた。上海駅に十九時三十分到着。直に上海錦江飯店に入る。翌二十七日は午前六時十分上海駅発の列車にて水の都蘇州に向ふ。ゆるやかな運河の流れ、岸に連なる白壁の家々、洗濯する女達、ロバを追う子供達、大公堂、あひるの群、あくびをしている牛、さかしまに浪にゆれる楊柳の影、車窓から見る移り行く天地悠久然たる中国民情の風物は、正に詩情溢れる水村の画幅であり、今なほ眼前に彷彿する。七時二十分蘇州駅に到着。直に名物刺繍工場を見学。その美しさ、材質及び種類の多いのには驚くばかりである。『月落ち烏啼いて霜天に満つ 江楓の漁火愁眠に對す 姑蘇城外寒山寺 夜半の鐘声客船に至る』日本人に親しまれてる唐詞で思い出される寒山寺にお詣りし、NHKでも紹介された寒山寺の鐘は日本でも馴染み深く、除夜の鐘にも登場し、一同代るがわる気合一発鳴らさせていただき、今でもその音は耳の底に残つて居る。そのほか、虎丘、留園、拙政園等水の名園を観光、夕刻、再び

上海に帰着した。

二十八日午前六時旧競馬場と云ふ途方もない広さの人民広場で三十分軽く練習を行い、清々しい汗をかいた。朝食後、二台のバスに分乗「玉仏禪寺」に参詣、熱心な仏教信者は押すな押すな盛況、真剣な眼ざしは果して何を求め、何を祈つて居るだらうか。

南京街の繁華さは、新宿東口通りの日曜日の有様を思い出させる位であった。それより虹口公園に進歩的インテリゲンチヤーであつた魯迅の墓と魯迅記念館、予園及黃浦公園、黃浦江岸の大通り等観光をした。古都北京に比べると、ずっと近代的な国際都市と云う感

を深くした。愈々訪中最後の演武が午後七時より上海市普陀體育館で行われることになり、北京市と同様開会、相互の代表の挨拶にはじまり、日本側より記念品、日本武道史を贈呈、直ちに日本剣道形、銃剣道基本、なぎなたの演技、続いて剣道三十四名が紅白に別れ模範試合を行った。高齢なのに勇猛な試合ぶりに対し、盛んな拍手が超満員の観客より起り歓迎の意が表わされた。続いて拳木、醉拳、刀木等十五流派の中国武術が、上海少年男女により公開され、盛会裡に幕を

閉じたのである。

が、終了と同時に多数の青年が会場に下りて来たので、通釈を通して聞いたところ、剣道の基本を教えてくれとの事、その熱心さにほだされて、時間も夜九時を過ぎており、體育館の了解の下に全員

の竹刀を貸し与え、全員にて手を取り約二十分指導したところ、大変よろこばれて帰つたのには一同大いに感激した次第。

後で判明したのですが、観客の大部分が體育の指導者関係であつた。一九四九年新しい中国が誕生して以来、中国武術も新しい正式のスポーツ種目となり、大学から小学校まで武術チームが生れ、人民の体位向上をはかり、友情を深めると共に祖國を守るにも役立っている人気のスポーツ種目となつてゐることであつた。中国の古い時代の武法と、剣道の形とがその淵源に於て深くかわり合つていた事を考えると、今後相互に交流を重ね、理解を深めていくことによつて互に学びつ、夫々の普及についても協力出来る機がやがて熟してくるものと信ずる。中国に於ける十日間、各地に於て自力更生、動員建国、刻苦奮闘をモットーに社会主義國としての躍進を続ける姿には大いに学ぶことがあつ

た。と同時に新生中国に幸あれ、そして子々孫々に至るまで友好の下に彼我の発展を祈つて止まないものである。

静岡最近情報

春水さん教壇を去る

「シェンスイ」の愛称でなじみの深い村上春水先生が、この三月母校の體育教師を最後に教職に別れを告げた。教職生活三十七年、三十二年の静岡國体成功をはじめ母校ばかりでなく静岡県の體育界に尽くした功績は大きい。

今後は、県高体連監査役として静岡県體育界の指導に当たる。

野球部監督にOBの船川氏

県高体連事務局長に転出した野島讓氏にかわつて船川誠氏が母校野球部の新監督に就任した。

船川氏は、静岡、早大を経て浜松商では磯部監督の片腕として甲子園に三回出場、四年前の春のセンバツで同校を優勝に導いた指導歴を持つ。

久々に出了OB監督として、ひと味もふた味も違った静岡野球をめざしてほしいと関係者の期待は大きい。

光木徹(67回)

『旧師群像とヒーロー』

セツカチ先生

芹澤 正 憲 (43回)

プロローグ
運動会『静中名物知らないお方に
自慢のセンセイ教えます
(一)にセツカチ(二)にラッキョウ
どちらも毛なしでのおえ
皮もオツムもツウルツル!』『オサルとタヌキは仲よし小よし
マンジュー山別けおすを別け
なんだ神田とホラ福治
天文空見てのおえ
きやるが鳴くんで雨づらよ!』

(静中チャンチキ・オケサ)

昭和二年四月二十四日の静陵は
限りなくブルーに晴れ渡り、空の
彼方に八面玲瓏の富士が仄かに紅
さす絶好のレジャー日寄り。素朴
なカーニバルとして、その頃静岡
では市民権を得た大運動会の幕が
煙火の轟きと共に雄叫び高く切っ
て落された。昨夜来の気付かわれ
た雨雲がドロンと消え失せて、空
には幸運を約束するかの様に壮
大な虹がかかったのも、共々必死
に折ったテルテル坊主のおかげもあるが、この日を先途と精進お
さおさ怠りないわれらの悲願を浅
間さまが嘉されて、ゞきやるが鳴
くんで雨づらよ、を天狗の扇で追
い払われたものであろう。満艦飾の万国旗が、臥竜のよう
にトグロを巻きながらハタハタと
鳴っているのも、きょうのわれら
の息吹きを象徴する画竜への点睛
でもあろうか。俄然号砲一発!短
距離百米を皮切りとして、学年対
抗レースがスプリントも鋭く、紙一重のデッドヒートで白いテープ
目がけて胸から踊り込む。早くも
インターミドル争覇圏の一秒台
の好記録が生れたよう、場内放
送は幸先よしとばかりにしきりに
静中賛歌を流しながら我鳴り立て
ている。テープを切るスタイルも
その頃もてはやされた極東オリン
ピックの短距離王カタロンのジャ
ンピングフィニッシュがもつぱら
花盛りであった。フィールドでは
国体の先駆神宮大会のハイジャン
プで無名の一中学生ながら空如出
現した彗星のように次々アップされるバーをツバメのようにクリヤ
ーして、共に輪えいを争う実業団
のベテラン連を顔色なからしめ、
見事オール日本のタイトルをさら
った加茂君!その青春のアイドル
にあやかればかり、ウルトラC
のロールオーバーが軽妙に飛び交
いながらあざやかにきめている。前年の野球部の甲子園制覇、真
紅の大旗に続けとばかり校友会各
部のクラブ活動も熾烈をきわめ①
遠慮は無用、ズバリ優勝を狙え!
②実力のまえにはツキも女神もあ
るものか!③苦しい時は敵も同じ
だ、我慢、我慢!④歯を喰いしば
ってハングリー根性に徹しろ!⑤
弁解はよせ、弱いから敗れたの
だ、イカレポンチめ!⑥惨敗とは
呆れた、アタマを割って帰ってこ
い!⑦敗けて泣く涙があるなら、しごきで流せ!というのがわれら
の言わず語らずの合言葉であつ
た。ハナ息の荒さもダービー栄冠
馬並みで、正に静中のダイヤモン
ドネーじであり、キラ星の黄金時
代であった。さりとて近頃の高校
スポーツにテラホラ見られる醜い
インパクトのように、自分の学業
を放擲してまでスポーツ一辺倒に
ウツツをぬかしていたわけではな
い。当時わが静中は、すでに県下
随一の名門校として、かつ、進学校としてもオクターブ高く評価さ
れていた。そのブライドをいささ
かも傷付けることなく、自分の学
業にいそしみながら、伝統の有名
校進学ノルマを余祐紳々果しつつ
赫々たるスポーツ精進の成果であ
ったわけである。したがって、わ
れら岳南健児が胸を張って誇りと
したいのは、校歌に謳われた『竜
爪山の木枯しに 青葉が岡の夏の
日に 身心鍛う大丈夫』たるわれ
らが『文武の道を励めいざ!』と
いう校歌の垂訓に文字通り対応し
て文と武の二筋道にかけてひたす
ら精進し、しかも驕らず淫せず、
黙々として築きあげた不滅の金字
塔と、その卓抜な精神力の一点に
集約せねばならないだろう。横道にそれた筆をカーニバルの
会場に戻す。やがて種目は裂帛の
気迫も鋭いシールド競技から、肩の
凝りをほぐすユーモラスな歌派
ものに移る。ネコのカンブクロか
らジャジャ馬ならし、ついには抱
腹絶倒の脱線ものに突入、中での
傑作は、名目こそしかつめらしい
障害物競争と銘打ってはあが、
中味は似てもつかぬおさげ遊
戯!伊豆のイルカ漁を真似て、号
音と共に走ってくる俄かイルカに
綱をかぶせて一網打尽!綱の目に
からんでジタバタするのを介添えが大漁、大漁!イルカは高値だ手
易くは逃さんぞ!と喚き乍らさら
にドッカーリと押え込み。網の中の
イルカはいよいよ狼狽えて七転八
倒!各国の自然保護団体に残酷物
語として告発するぞ!と金切り声
をあげても喚めいてもへあたりが
騒々しいゆえ、とんと聞えませぬ
ぞえ、半兵エさま!のコンコンチ
キ遊戯。空如オンデコ大鼓の音が轟き渡
る。目を移せば、校庭の一角から
剣道部の古式ゆかしい野試合装束
の一群が南無八幡大菩薩の吹き流
しを先頭に颯爽と登場。鉢巻姿も
凛々しい面々は、戦国の世のつわ
ものもかくやとばかりに、各苗字
入りの旗を背中に差し込み、将
は趣向を凝らした纏に囲まれると
いういでたちで、紅白両軍に別れ
てグラウンド一杯に散らばる。かく
申す拙者も、この砌り、ドクロの
纏に囲れて風林火山の指物を背に
赤軍の総大将として出陣、ホラ貝
の音と共にサアサ、サアサ、オウ
オウの気合の応酬も鋭く、機を捉
えて大上段に構えて、スリ足でに
じり寄る乾坤一擲の戦いを、白軍
の総大将小倉君に挑んだものでは
ある。その青春の日のロマンに充ち
たなつかしい思い出を、いま忘却
のかなたより引き出して、きのう

の出来ごとのようになつかしんでいる。人間は、歳月を理由に頭の中のビデオテープを容赦なくカットするが、若き日へのセンチメンタルジャーニーだけはカットせずとも刻明に印象づけられているようである。

かくてのたりのたりの春の陽も、
 傾きかけた頃、フィナーレを飾るメインイベントの攻城戦が始まる。攻守両軍の銃声が煎り豆のようにこだまするさ中、校庭の一角にデンと築かれた天守閣がメラメラ赤い焰を吹き上げてあえなく落城する頃、休戦ラッパのベースと共に校庭はしんとろりと黄昏のとばりに包まれて、いつしか麻機田園は黒ずみ、竜爪の頂きはセピア色に変わって行く。突如その静謐を破って怒濤のように湧き起るのが冒頭のザレ歌、静中チャンキオオケサであった。朝からの狂騒の渦に巻かれっぱなしで、もはやフラフラタタタのわれらであったが、アデューカーニバルよ！の別離のファンファーレとあっては、とって置きの蜜声をふりしほって、擦りむいた足腰にサロメチールを塗りたくってチャンキ踊り狂う静中オケサには恥をかかせなかつたようである。このイカレボンチどもの乱痴氣騒ぎは、

編集した女学生のオカチメンコたち（失礼！）に熱狂的な人気を呼び、怒濤のような拍手喝采を浴びたものであった。

われらの時代を遡る数年前までは会場の整理券、残廢物に点火、その炎々の火ぶすまをバックにカーニバルの打上げをファイヤーストームに切り換えて、火焰を円舞しながら華麗なチャンキオオケサの響きが鐘大鼓入りでいとも繚乱に繰り上げられたようである。その際は、近頃のベナント制覇の野球監督の祝勝胴上げのように、逃げ廻る諸先生を追いかけて逮捕！次々とバスケットボールのように高々と虚空を挑ね上げるのが、カーニバル納めの締めくくり行事であった。さりながら、去年年、ザレ唄のヒーローセッカチ先生の胴上げで宙に舞い上ったご老体を不覚にも受け損ねてグラウンドにズリ落し、毛なしのツルツルオツムに礫が付きささるという珍事が勃発した。

こんな些細なニュースこそ書かないのが新聞の見識であろうが、ネタ不足でウサギのように耳を長くしていた地元新聞にスクープされて、社会の本質を自認する記者の熱意とばかり仰々しく茶化されて、哀れ名門校もとんだ報道暴力に台無し形なしという醜体。さなきだに折目正しい石部金吉校長の逆鱗に触れて、ヤカン頭に湯気を立ててのカンカンの激怒。自今胴上げもカーニバルのデモも一切まかりならん！というジャンボなお災をすえられる哀れな顛末となり下った。早速、陰のゴットフアザーと呼ばれる先輩を仲に立てての平グモの詔をしたが、校長はガンとして受けつけない。こうなれば当ってくだけろ、とばかりウドンのような神経のドンキホーテ軍団の面々のこと、お祭りの残廢物のボーイズ・ビー・アンビシャスのブラカードを引張り出してきて校長室に闖入、直談判に及んだものである。

「それはなんだ！」
 デロリ睨める校長に、リーダーがすかさず、われら静中健児の心意気を象徴するキャッチフレーズです。運動会の胴上禍はわれらの所為ではなく、このイカレボンチのキャッチフレーズめが余りにも張り切りすぎて引き起した過ちです。どうかこのブラカードに面してお許し下さい。おいッ！このイカレボンチめ！校長先生に謝りなさい！と、所作もいともユーモラスに土下座させた。苦虫を噛みつぶしたような校長はチラリと一瞥してなにがおかしかったのか、ニヤリ笑みをこぼした。ワシはイカレボンチだなんて云うた覚えはないよ。儒夫をして起たしめる、壮大な夢をはらんだスプライトリイなキャッチフレーズではないかい！創成期の札幌農学校に教鞭を取られていたクラーク先生が帰国に際し、別れを惜しむ教え子達に峠の頂上で馬上からいみじくも放った別離の言葉であり、ロマン溢るる教訓でもある。ボーイズ・ビー・アンビシャス！校長は抑揚も優雅に高らかに復唱したものである。それをきっかけとして皷しい顔がちよっぴり弛んだようである。これに勢づいたリーダーは、

ここが空破口とばかり、運動会はわれらの若い魂が搾裂するお祭り、この静岡では既に市民権を得て定着したカーニバルである。時代を先取りした風刺やサビのきいたキャッチフレーズなどで観衆にアピールしたり、漫画やイラスト入りのブラカードなどでデモッたりパレードしたり、センスのいい仮装行列、潑刺としたアトラクションやら爆笑洪笑のおふざけショウなどを盛沢山に交えることによつて、お祭りはほんわかと盛り上げるものである。その目玉商品が消えてなくなれば、会場はお通夜の土壇場になり下って閑古鳥が鳴くのが関の山。ことにカーニバルが父兄や市民とのコミュニケーションにつながる正念場であれば、願ってもないチャンスではないでしょうか。校長先生！必要悪の面も多少ありましようが、メリットの面が圧倒的に優勢！ゼヒ、ショウやデモも許して頂きたい、また多少の勇み足は無礼講の名に面じて大目に見て下さい、と必死になつて縋々訴えながら掛合つたものである。リーダーのウィット溢れる熱弁が、頑迷な校長の心筋をほぐす大きな説得力となつたようである。

こんなときリーダーとなる生徒はきまつて学業の面では、も一ツパァとせずいつも低空飛行の常習者、さりとて失速墜落もしないという頼もしいますら男で、日航のパイロットなら正に適材適所！ことに校長との丁々発止と渡り合う雑学面での博識ぶりと心臓のはどは一同を唸らせたものである。やがて校長は奇弁翻弄されたのかケムに巻かれたのか、「わかった。よろしい！今後は昼休み時間をデモに振り当てよう。センスよくやれ。但し、胴上げは罷りならん！と余ほど胴上げ落しが応えたと見えて、但しを特に声高に付け

加えての差止めであったが、まずは前向きのご託宜で、ホット胸をなで下したことであった。かかる迂余曲折があつて、われらも半ちくながら一応の免罪符をかち取つた次第であつた。

絢爛時代の胸上げ劇のディレクター格の先輩の後日譚によれば、何分セッカ先生のオツムはサルではないが毛が三本ぐらいいしか生えておらず、正にチャンチキオケサの皮もオツムもツウル、ツルはドンビシヤリの巧な表現！先生がバレエのボールのように宙に浮き上つて落下した際、脳のミンにウェイトがかかつていたのか逆さまに落ちてきた。われらが慌てて手を差しのべたが、オツムはマヨネーズを塗りたくつたようにツルツルで、すべて取りつく鳥がなく、不覚にもツルリ、スッテン、コロリ！と派手に取りこぼしてしまつた。無礼講がタチマエとは云え、かえすがえすも申し訳ないことをした。グラウンドに土下座して平身低頭した次第である。という神妙な申し開きであつた。多少マッチポンプのきらいがなくもないが、一応その申し開きでブレンティ、イナフ！すべて純真な行為が裏目に出てのミステリーで他意は微塵もなく、地元紙のゲスのカン

グリを粉砕して余りある釈明であらう。

いまや老残をかこつわれらもタイムカプセルに乘れるものなら、往年のこんなシーンを見たいものである。そこには大正ロマンと共に、燃え上る若き日への愛情とたゆとう青春の陽炎がそこはかとなく立ち昇っているのに違いない。じつとたじろぎもせず凝視するわれらには、去り行く遠い日への訣別をなつかしむすばらしい春愁賦となるのではなからうか！恰も老いたアンドレジッドがレジョン・ドヌール受賞の際、勲章より若さと青春が欲しいと、いみじくもつぶやいた、その青春への憧憬こそ老いの芯底に潜むなべてのラブコールでもあるようである。

セッカチ先生

われらがセッカチさんと愛称した吉田重祐先生に拙稿の檣舞台を彩る主役としてご登場願うのは、先生が静中百年史中のオール旧師群像中のズバ抜けたヒーローであり、その周辺は名物である先生の光頭のように光彩陸離、しかも渦巻くファクターの燃然ぶりたるや絢爛豪華、しかも光りの当て方で玉虫色とも云おうか、色合は妖しく変る神がかり的な映像だから

である。それらの実証として、試みに諸兄の書架に真昼の夢を食する静中静高百年史を繰いて一渦千里の駆け足でビクアップされるなら、ボリュウム感溢るる校史の舞台になつかしい群像が登場、それぞれ牧歌的な旋律を流しながら個性あるポーズで演技する中に先生の光頭もしばしば脚光を浴びる筈である。然らばその光頭に降りそそぐ集中豪雨のようなファクターに遭遇、しかもそのアイデンティティが他を圧しつつ銀河のようにキラリ光芒を放っているのに眩惑されて、諸兄はこれぞ待望する星座！と狂喜乱舞されることである。恰もコロンブスが腹の大陸をマストの上から視野に捉えたときのように！

まず先生のファクターのアイデンティティにメスを入れる前に、人物評価のパロメータについて一言を費してみたい。

世にセールスマンなる人種があり、この世界では能力を誇示するのに名論卓説は一切不要、両手でパッとスターテスの数字を出して見せるしかない、というのが常識である。またテレビ番組の評価のパロメーターはCC時代の寵児視聴率という数字だけが錦の御旗としてまかり通るだけである。いか

にそのタレントがうぬ惚れようと視聴率が下がれば消えて貰いますとニベもなく追放されるのが、このジャンルでの掟であるからだ。同じ発想で聖職者をセールスマンと同じ次元の物差しで比較検討してもいささかも聖域を冒瀆することにはならないと思う。何故ならば、真理に二通りはなく、聖職者と云へども、その人物評価は、その風貌やアトモスヒヤとは全く関係なく、つねにその業績やファクターの上に積算された数字的なデータによって冷厳に判定すべきものと信ずるからである。したがって、そのパロメーターの低い教師は教育者としては凡庸でエリートとは呼べない、と判定するしかないのではなからうか。

さて当初、先生には性格的に飛んだり撥ねたりの八方破れやオポチニストの奇矯性は全くなく、また背のびも厚化粧もせず、さりとて異色のアネクドットもなく、持ち合せているのは収斂性の高いファクターだけで、筆をとるに当たって、その素淡たるオールライフの哀歌を活字にしく、世俗に云う絵になりにくい難点があるやに思われた。しかし、やがてそれは皮相を撫でたフレキシブルな感覚でしかなく、相愛にすぎなかった

のである。ぐいと掘り下げてその生涯を追跡すれば、その周辺は世の垂涎するほどの逸話の花園であり、ことさらにわれらが華を咲かせずとも、裸像をあるがままに画くだけで次元の高い映像となり、しかも観郁と芳香を放つ聖職像の域までに高まるとの認識がドカリ定着したのである。即ち先生の教育に捧げた生涯とその周辺は、正に世界のマスメディアに帝王として君臨したユリアス・ロイターの座右の銘、

Fact is stranger than fiction

を地で行くものではなからうか。

江戸の香り

まず冒頭に人物論の定石どおり先生の経歴から取上げてみよう。

明治維新の学制に組み込まれて発足した旧静中が、その後の学制により新制度の静中として雄叫び高く呶々の声を挙げたのは、遠く文明開花の明治十九年のことであつた。即ち、この年制定された勅令第十五号により、わが静中が県立中学校一県一校制のベース校となつて、県下各中学校を拾く吸収合併したわけである。したがってそれまで共存していた静岡師範より分離独立して静岡中学校の名称を切り捨てて名実共に新生静中

として発足、八面玲瓏の富士の高嶺を理想として産声高くスタートしたものであった。先生は、その礎、新生静中に教師として採用されて三等助教諭に任ぜられ、月俸大枚金拾円也を支給されたものである。爾来、職場を静中一校のみに絞らぬいて、昭和四年現役教師（教授嘱託）のまま、みまかられるまで春風秋雨、実に四十三星霜！倦まず弛まず薫陶をつづけられたわけである。思いを馳せれば、文明開化の黎明時代から大正ロマンの華咲くデモクラシーの世まで、氣の遠くなるような長い激動の空間をよくぞ堪えぬかれたと絶賛を惜しまないものである。われらが先生の温雅な撫育を享けた時代は先生の晩年で、解脱の高僧のような先生が、すでに停年で一端退職されたが学校側の懇望もだし難く引続き教授嘱託という楽隠居的な身分で再スタートされた頃であった。

ニアーパーケットのよう時代から置き忘れられた先生であるが、日頃、教師聖職論を金科玉条として肌身につけられていた先生は、敬老の意味合いからの楽隠居的な待遇をされても忽ち不機嫌となつて、私はレッキとした現役教師である、それに見合充分な給料を頂いているとアクセント強く反撥されて、いささかも職を疎かにすることなく、ひたすら聖域に体当たりされていた。そして、わが職場は静中を差し置いて外にはない、静中を枕にして死のうという、殉教者のような無垢な心境で老軀を削りながらひたすら薫陶にいそしめつつ奥津城への幽明の道をとぼとぼと辿られたのであった。恰も風狂の漂泊詩人山頭火が「このみちをゆく。このみちをゆくよりほかない私である。それは苦しい、そして細くけわしい道であるが」と詠嘆したごとくに。

果せるかな、われら五ヶ年の薫陶を了えられるや否や、朽木の倒れるように老夫人独りに看とられて、凱旋橋たもとの三軒長屋の真ん中で、文明開化以来の長い教育街道をひた走りに走りぬいたロードレースにおさらばされて大往生をとげられたものであった。

思い起せば、そのウサギ小屋のような館から毎朝刻に旧幕府直参の旗本の出である先生は、その氣位高い矜持をいささかも崩すことなく、琴瑟相和した老夫夫人に、小笠原流の三ツ指作法で、はやお帰りの遊ばせ！といとも丁寧に送られて、しゅくしゅくと出で立つ華麗なご出陣風景であった。しかも、海軍士官スタイルの教師制服に蒲柳の瘦軀を包んで、見送る夫人をかえり見て改めて直立不動の姿勢でパッと拳手の礼を返えしないうち、明治新派の不如帰の舞台のフィナーレを思わすドラマチックな驚愕ぶりであった。

明治女の典型のような夫人のこの貞淑ぶりは、当時の女性、例えば、かつての恋人の結婚式に招かれた娘心の表裏をあげすけに唱ったくたばつちまえ、アーメンなどの唄が目下ヒット中という世相下の女性に比べれば、或るいは演出過剰とも思えるシーンであろうか、明治はいよよ遠くなりけりの感慨を深くするものではないか。

先生の教育に捧げた生涯の終焉は、恰も線香花火が燃えつきる間際に真紅の火の玉となり、それでもまだ残りのエネルギーのあるたけをふり絞りつつパッ！パッ！と消えかての余燼を散華させつつあるような、あやしくも華麗な晩年であった。老いなりとはいえ、なほ地殻深くマグマを内蔵する活火山のような先生のこと、死を前にしてなほ点滅する一瞬の光芒、死をみつめながら燃やす教育のライフワークの執念！この絢爛の聖職像をまのあたりに見てとった

われらは、ひとりの教師の、教育へのひたむきな情熱と、そのすさまじい生きざまをまざまざと胸に焼きつけて、一步、二歩とたじろぎながらひたすら、衝撃的な感銘にひたつたことであつた。

男の顔は黙示の履歴書だといわれる。凝視すれば、先生のマスクも論語の連而編のごとく、年輪と共に深められた教養に溢れ「温ニシテ厲シク威アリテ猛カラズ恭ニシテ安シ」という態の、正に天下一品の慈眼であつた。

その静中史の生き証人であり、またかけがえのない語り部でもある先生を見つめていると、人間の興亡がまざまざと回顧されて、恰も平家物語をまのあたり見ているような不思議な幻覚のトリコとなるわれらであった。

ともあれ、この物情騒然の世に浮きつ沈みつ、四三年という不滅の動乱記録をうち樹てられて、静中史のかけがえのない語り部となられたことは、独り静中の誇りとするのみならず、全国でも珠玉のレコードとなるものではなからうか。この金字塔をうち樹てられた先生こそは静中教師群像中の最大のヒーローであり、静中史のトップを飾るにふさわしい空前絶後の巨像なるものであらう。

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

ねつ かん
熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67回)

住 所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶 原 由 三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7

神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

『こえ』

42 吉田 幸一

会報御恵送下され有難うございました。会費として、とりあえず表記の通り御送り申し上げます。

44 佐藤 文三

関東同窓会会報いつも楽しみにしています。会費納入遅れてすみません。いつも納入したかどうか分からなくなってしまうので。

当方、おかげ様で元気で居ります。幹事様にはいつも大変御世話様です。

49 篠田 俊一

幹事の方々の御苦勞を御察し申し上げます。還暦も過ぎて早や五年経ち六五才にもなりますと、旧交を温めたい気持ちにかられます。

関東同窓会も戦後の若い人が多く吾々の同級は極めて少いため、戦中までの高齢者同窓会と区分のはいかがでしょうか。私見で恐縮です。

下記の通り経営コンサルタントを始めた。
51 谷川 清

谷川技術工務所
横浜市金沢区富岡町二五八二—二三
電話〇四五—七七二—二四一六

51 玉越 俊一

いつもお世話に相成り感謝しております。今後の支部の発展をお祈りします。

52 大草 知久

お仲間に入れていただき光榮です。関係各位の御配慮感謝申し上げます。

僅か一年の在学でしたが、今なお岳南健児の誇を失なわぬよう心がけております。いたらない者ですが、今後よろしくお願い申し上げます。56年度会費をお送り申し上げます。

52 相馬 秀夫

勤務先変更
鶴クロバー
海老名市門沢橋七五九

55 堀江 重遠

会報で、中田吉信君が大石鉄男君を追憶してをられた。御冥福を祈って止まない。私が勤務先の病院で会った同級生は、大石君、野中篤君、杉本正勝君、もう一人お名前を失念。平生御無沙汰しているが、同君達を始め、クラスの皆さん、お元気で過ごしたろうか。

57 加藤 健三

平凡でも誠実な町医者で念じていつのまにか33年が過ぎました。同窓会の発展を祈念しております。

57 牧 知己

元気で暮して居ります。総会は皆さんに会えるので楽しみにして居ります。

57 岩井平一郎

同期の皆様お元気でせうか？岩平もお蔭様でなんとか元気に生きております。皆様の益々のご活躍とご健康を切に願っております。

58 沢西 浩

会費おくれて申し訳ありません。57年分も送らせて貰います。58回のゴルフコンペを企画しています。仲々実行迄には程遠い感じがします。会報に出ていました「大石鉄男」氏は私が所属していた日本能率協会の先輩コンサルタントで、じっくりしみじみと読みました。

今春二月二十日、社命により韓国金星計電社に出向致しました。三年位の予定ですが、皆様によりしくお伝え願います。

58 田中 寛

昨年九月から宇都宮市に移転しました。
(新)宇都宮市下戸祭二—一〇
県公舎一〇 二三〇
電話 〇二八六(二五)六三八五

59 鈴木 昭雄
59 佐野 英一

いつも御世話になってます。
御尽力感謝しています。

転居先 二三二

横浜市南区六ツ川三一八五—一六
横浜パークタウンG—六〇四
電話〇四五—七一五—一六九四

勤め先
錦ブリマルックス
電話 〇三—三五〇—五五三八

60 里見元一郎
相変わらずですが何とかしのいでいます。なお表記のように住居表示が変更しました。

二三三

横浜市港南区港南台四—五一—四—五〇一

60 君島 康弘

折角の会合にもいつも都合が悪くて参加できなくて残念です。会報はよく読ませてもらっているつもりです。今後ともよろしく。

66 加藤 昭

私は六二・六三四期卒となっており、誤りで六六期回でありますので御訂正願います。

66 川合 勉

川合と河合、川井、河井……よくまちがえられます。

66 浜田 裕志

今年四月より、東芝の昇降機事業部を担当する事になりました。
エレベーター、エスカレーターは是非、東芝に発注下さる様お願いします。

電話番号変更

〇三一五〇七—六八八〇

67 河口 正義

56年度会費送金します。住所が表記に変わりました。
二四七〇—二三

愛知県知多郡武豊町字山ノ神五六一三番地

68 塚本 浩司

56年度会費遅くなって申し訳ありません。なお、この用紙に同封されて来た名簿補遺訂正表によりますと、小生が「転居先不明」となっておりますが、53年10月現在地に住んで以来転居しておりませんし、諸通知等も正しい宛先で受取っております。何かの間違いではないかと思っておりますので、ご訂正下さる様お願いします。

◇本年11月に左記に転勤になりました。
小西六写真工業株式会社
ID事業部業務グループ
二一六〇

二一六〇

東京都新宿区西新宿一丁目二六一—二 新宿野村ビル
電話〇三(三三)八二—(大代)

69 有賀 俊彦

会費の払込が遅くなって申訳ありません。諸先輩皆様方の御活躍と御健康を切にお祈り致します。

電話 三二—二五三六

勤務先

運輸省港湾局開発課課長

電話 五八〇一三一一

70 中村 竜二

55年4月より下記へ転勤・転居しました。

自宅 二二二

横浜市神奈川区沢渡五八

70 河井 良夫

2年生転入で顔なじみのかたが少い故か御無沙汰しております。おついで折、想い出されましたら、会社の方(銀座)へでも、お尋ねいただければ幸いです。

70 石山 宏

今回初めて入会させて戴く事になりました。田辺製菓東京支社勤務です。差額の三千元は諸経費の一部として御笑納下さい。この次の同窓会を鶴首して御連絡を御待ち申し上げます。何卒今後共宜敷御指導下さい。

70 宮代 省一

なかなか静高の会合に出席できず残念ですが、会報で母校の、また同窓の皆様の活躍を楽しみに読ませていただいています。

小生、日産自動車の村山テスト

コースで車を走らせています。

70 村松 勝治

いつもお世話になり有難うございます。

今迄ゴルフの案内をいただいて

おりましたが、残念なことに平日が多く参加できません。できれば

マーチャン大会参加にきり替えようかと思ひます。ご案内いただければ幸いです。

× ×

マーチャン大会は過去二回ほど

青山の雀荘(会長紹介)で行いま

したが、各人のルールの違い、人数が四人単位を必要とする上、出欠が不確定などの事から、現在中止しています。何かよい案があったら教えて下さい。(事務局)

70 谷川 治弘

次回は是非とも出席したいと思つて居ります。

幹事さんは大変であらうと感謝

いたして居ります。

71 佐藤 利治

年会費の振込み遅れて申し訳ありません。次回より充分注意します。57年の総会に期待しております。良いお年を迎えて下さい。

72 藤野 威男

相変らずまあやっていきます。

72 藤下 義昭

56年10月に移転と同時に転動しました。詳しくは別途 はがきにてお知らせ致しました。

73 仲川 信正

福岡に着任して、一年半が経過

致しました。その間、同期生が転

勤して参りましたが、当地に同窓生が居りましたら御紹介下さい。

機会がありましたら、一度皆で歓談したいと思つて居ります。敬具

73 大石 堯史

いつもご苦勞様です。ありがとうございます。

73 奥村 至朗

いつもお世話様です。お手数をかけ致しますが、よろしくお願ひします。

73 飯塚 迪子

住所が変わりました。よろしく。

旧 二一八六 国立市富士見台団

地 二一三三 四〇三

新 二一〇六 多摩市永山五丁目

三〇一九二

電話がまだです。決定次第

お知らせします。

73 林 さち子

56年度会費を送ります。56年6

月の関東同窓会会員名簿は誤つて

います。

二一九四 町田市本町田一四三

三一一一

電話〇四二七二五一一八〇六

78 白木 桃子

住所が変更になりましたのでよろしくお願ひいたします。

旧住所 横浜市中区千歳町一

一一

新住所 二二三五

横浜磯子区磯子三二七二二三

電話 七五三三二一八

勤務先電話 七八二二二〇一

79 杉本 祥勝

〔住所の変更〕

新住所 二二七五

習志野市本大久保四一五八六

電話〇四七四一七七七八四一六

83 中村 豊

サラリーマンにとつて30才代は

もつとも酷使される年頃、また転

勤も多い。そんなわけでなかなか

会合に出席できませんが、一生岳

南健児の精神でがんばりたいと思

っています。

86 児島 賢

住所が変更となりました。

二二一六

茨城県日立市諏訪町四一六一

三一

95 堀川 和裕

年会費の領収書(55年度分)が

手元にありません。会費の徴収だ

けでなく、その後の処理もお願い

します。

× ×

総会々場で納入して頂く会費は

引換えに領収書を発行しています

が、振替用紙による送金納入は振

替用紙の半片を領収書に代用させ

て頂いております。(事務局)

95 堀池 浩行

電話入りました。

〇三二〇三一九一五三

97 杉山 千晶

57年3月に引越のため東京の

住所が変更になります。新住所は

わかり次第御連絡したいと思いま

すので、今後よろしくお願ひし

ます。

97 白鳥 孝明

元気でやっております。

97 真次 秀知

(1)「静中・静高同窓会」

に会費を払った為、関東同窓会に

は払う必要がないと間違ひして

おりました。

(2)私の住所は「小仲台三二一三

六」です。訂正して下さい。

97 岩崎 保浩

静岡静高関東同窓会名簿で姓が

「岩井」となっております。

「岩崎」に訂正お願い致します。

二二三〇 埼玉県大宮市東大宮

六丁目四四一七 竹田闊方

芝浦工業大学

〇

振替用紙の通信欄にかくも沢山

のお便りがあり、多数の会員の消

息が判明したこと存じます。こ

れからも出来るだけ通信欄を利

用になって、近況報告に役立てて

下さるようお願い致します。

五六年度会費拠出者

期別

五〇	富士夫、江川友治、丸尾文	六〇	原田竜二、君島康弘、原俊	七〇	望月泰弘、渡辺勝美、余語	七六	国保能彦、塚本平二、富田
四九	石割敏夫、篠田俊一、大津	五九	青木静男、内田武二、高橋	六九	加藤喬志、中村敏郎、狩野	七四	加藤恒行
四八	香 鍋田親一、飯田辰司、青木	五八	岩本忠吉、沢西浩、海野進	六八	田中英夫、伊月喬、横山富	七五	鷺山裕美、望月利人、大島
四七	実 嶋谷亮一、石川弘光、吉田	五七	田中寛、伊藤健三、佐野正	六七	士夫、中村睦、杉山忠男、	七三	崇志
四六	三 山本幹夫、篠原清、田中修	五六	昭、山中孝二、相馬巖	六六	塚本浩司、安藤昌、若山光	七二	石川正明、藤野威男、加来
四五	武 伊東仁、千葉保次、下川猛	五五	恒彦、鈴木明	六五	子、稲葉清、瀬口寿一郎、	七一	義信、高木宣明、高須喜隆
四四	佐藤文三、成川利男、小沼	五四	加藤健三、高橋礼久、牧知	六四	田中映吾、河口正義、児島	七〇	大木通安、藤下嘉昭、増田
四三	小 河直人、清水正照、山村	五三	一 岩井平一郎、小田嶋瑞夫、	六三	英男、小杉謙一、大森恵吉	六九	欽一、宮沢勇
四二	祐次郎、沼津善夫、高塚嘉	五二	唐一 石塚由雄、山口弘、伊藤象	六二	吉野亨、湯本恭三、山川静	六八	望月公美、塩坂雅司、林さ
四一	三宅泰雄、高木三吉	五一	八郎、杉原俊一、堀江重遠	六〇	夫、手塚重明、美濃一郎	六七	ち子、大石晃史、奥村至朗
四〇	北川二郎、石田実、杉本四	五〇	居初良雄、渡辺治郎	五九	合正純、中野省吾、加藤昭	五八	山下茂、仲川信正、松永烈
三九	永嶺忠雄	四九	長沢栄一、吉川鑑介、水上	四八	田中映吾、河口正義、児島	四七	中川明久、松下勝朗、塩津
三八	郎、今井琢磨、和田連二	四七	佐野修也、成瀬信男、石神	四六	英男、小杉謙一、大森恵吉	四六	浩、宮崎禎雄、小柳忠義、
三七	大村巳代治、嶋野儀作	四六	松永圭司、佐藤昌武、大草	四五	増田政雄、吉井駿亮、仲野	四五	松永文夫、大村博、飯塚迪
三六	小田三千雄、福田誠	四五	知久	四四	実 深沢正、安田正弥、藤原朝	四四	子、西沢秀雄
三五	福田功	四三	虎岩秀郎、森下洋、谷静夫	四三	則、河合勉、浜田裕志、河	四三	加藤恒行
三四	三 前田鉄三	四二	鈴木弘雄、木宮高彦	四二	合正純、中野省吾、加藤昭	四二	加藤恒行
三三	二 木呂子誠一	四一	居初良雄、渡辺治郎	四一	田中映吾、河口正義、児島	四一	加藤恒行
三二	一 竹村川二	四〇	長沢栄一、吉川鑑介、水上	四〇	英男、小杉謙一、大森恵吉	四〇	加藤恒行
三一	二 木呂子誠一	三九	八郎、杉原俊一、堀江重遠	三九	吉野亨、湯本恭三、山川静	三九	加藤恒行
三〇	三 前田鉄三	三八	佐野修也、成瀬信男、石神	三八	夫、手塚重明、美濃一郎	三八	加藤恒行
二九	二 木呂子誠一	三七	唐一 石塚由雄、山口弘、伊藤象	三七	合正純、中野省吾、加藤昭	三七	加藤恒行
二八	一 竹村川二	三六	合正純、中野省吾、加藤昭	三六	田中映吾、河口正義、児島	三六	加藤恒行
二七	二 木呂子誠一	三五	英男、小杉謙一、大森恵吉	三五	吉野亨、湯本恭三、山川静	三五	加藤恒行
二六	一 竹村川二	三四	増田政雄、吉井駿亮、仲野	三四	夫、手塚重明、美濃一郎	三四	加藤恒行
二五	二 木呂子誠一	三三	実 深沢正、安田正弥、藤原朝	三三	合正純、中野省吾、加藤昭	三三	加藤恒行
二四	一 竹村川二	三二	則、河合勉、浜田裕志、河	三二	合正純、中野省吾、加藤昭	三二	加藤恒行
二三	二 木呂子誠一	三一	合正純、中野省吾、加藤昭	三一	田中映吾、河口正義、児島	三一	加藤恒行
二二	一 竹村川二	三〇	英男、小杉謙一、大森恵吉	三〇	吉野亨、湯本恭三、山川静	三〇	加藤恒行
二一	二 木呂子誠一	二九	増田政雄、吉井駿亮、仲野	二九	夫、手塚重明、美濃一郎	二九	加藤恒行
二〇	一 竹村川二	二八	実 深沢正、安田正弥、藤原朝	二八	合正純、中野省吾、加藤昭	二八	加藤恒行
一九	二 木呂子誠一	二七	則、河合勉、浜田裕志、河	二七	合正純、中野省吾、加藤昭	二七	加藤恒行
一八	一 竹村川二	二六	合正純、中野省吾、加藤昭	二六	田中映吾、河口正義、児島	二六	加藤恒行
一七	二 木呂子誠一	二五	英男、小杉謙一、大森恵吉	二五	吉野亨、湯本恭三、山川静	二五	加藤恒行
一六	一 竹村川二	二四	増田政雄、吉井駿亮、仲野	二四	夫、手塚重明、美濃一郎	二四	加藤恒行
一五	二 木呂子誠一	二三	実 深沢正、安田正弥、藤原朝	二三	合正純、中野省吾、加藤昭	二三	加藤恒行
一四	一 竹村川二	二二	則、河合勉、浜田裕志、河	二二	合正純、中野省吾、加藤昭	二二	加藤恒行
一三	二 木呂子誠一	二一	合正純、中野省吾、加藤昭	二一	田中映吾、河口正義、児島	二一	加藤恒行
一二	一 竹村川二	二〇	英男、小杉謙一、大森恵吉	二〇	吉野亨、湯本恭三、山川静	二〇	加藤恒行
一一	二 木呂子誠一	一九	増田政雄、吉井駿亮、仲野	一九	夫、手塚重明、美濃一郎	一九	加藤恒行
一〇	一 竹村川二	一八	実 深沢正、安田正弥、藤原朝	一八	合正純、中野省吾、加藤昭	一八	加藤恒行
〇九	二 木呂子誠一	一七	則、河合勉、浜田裕志、河	一七	合正純、中野省吾、加藤昭	一七	加藤恒行
〇八	一 竹村川二	一六	合正純、中野省吾、加藤昭	一六	田中映吾、河口正義、児島	一六	加藤恒行
〇七	二 木呂子誠一	一五	英男、小杉謙一、大森恵吉	一五	吉野亨、湯本恭三、山川静	一五	加藤恒行
〇六	一 竹村川二	一四	増田政雄、吉井駿亮、仲野	一四	夫、手塚重明、美濃一郎	一四	加藤恒行
〇五	二 木呂子誠一	一三	実 深沢正、安田正弥、藤原朝	一三	合正純、中野省吾、加藤昭	一三	加藤恒行
〇四	一 竹村川二	一二	則、河合勉、浜田裕志、河	一二	合正純、中野省吾、加藤昭	一二	加藤恒行
〇三	二 木呂子誠一	一一	合正純、中野省吾、加藤昭	一一	田中映吾、河口正義、児島	一一	加藤恒行
〇二	一 竹村川二	一〇	英男、小杉謙一、大森恵吉	一〇	吉野亨、湯本恭三、山川静	一〇	加藤恒行
〇一	二 木呂子誠一	〇九	増田政雄、吉井駿亮、仲野	〇九	夫、手塚重明、美濃一郎	〇九	加藤恒行

建築設計・監理

株式会社

ユニオン設計センター

代表取締役 成 岡 英 彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67回)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)

駿介

七七 深山源一、漆畑陸章、大岩

七九 永井吉彦、三浦位通、

野田治江、柳川信子、後藤

嘉代、遠又英祐

七八 鈴木藤男、奥山和子、望月

靖春、白木桃子

七九 有川和子、杉本祥勝

八一 漆畑喜八郎、嶋田政子、塚

本武洋、芝山公彦、平口靖

則、前田浩

八三 中村豊

八六 児島賢

八七 胸組光明、清水恵子

九五 堀池浩行、近藤高伸、堀川

和裕、渡辺寧

九七 米山麻里、林俵、太田良マ

ミ、秋山義隆、杉山千晶、

白鳥孝明、小林正明、真次

秀知、岩崎保浩、清真佐子

中平英晴、藤岡里恵

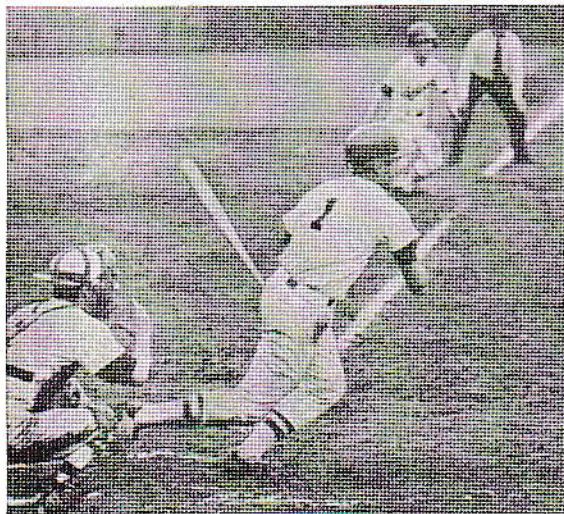
(敬称略・期内順不同)

前回締切後本年六月四日までに到着の五六年度会費分です。五七年度分に回したものは後日掲載します。

定期戦で快勝

定期戦、静岡に七連勝

三日、静岡草薙球場で行われた第二十四回静岡一静岡定期戦で、



七回表静岡二死満塁、大久保が中前へ勝ち越しの適時打を放つ。
三定・蔵月、捕手・長谷川＝静岡草薙球場で

静岡猛打で7連勝

静岡の追撃振り切る

【静岡の草薙、第二十四回静岡一静岡定期戦が三日、県営静岡草薙球場で行われた。伝統の戦である、小園投手もかつての活躍をみせ、対戦成績を七勝八敗とした。敗北は、心算の悪い投手が、試合の運びを握る、静岡の反撃力を見事、試合を大きく振り切った。

◆定期戦
静岡一静岡 50003000
静岡一静岡 0003500000
811

三定打 長谷川(商)
三定打 杉本(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)
三定打 利根山(商)

十一対八の成績で静岡を破り、定期戦七連勝を飾った。伝統の一戦に小雨の中をつめかけたファンは約七千人。静岡は二回三點、四回五點を挙げ一時は案

勝かと思われたが、中盤の静岡の追い上げで八ー八の同点。しかし七回二死からの四連打で三點をもぎ取って追撃を振り切った。これで対戦成績は十六勝八敗。

上掲のカットは光木徹氏(67)が静岡新聞から切抜いて会へ送ってくれたものです。

叙 勲

このたび45鈴木弥門氏は勲四等旭日小綬章を受章されました。なお43坪晴行氏については、43回の各期便りに掲載しました。

謹んでお悔み申し上げます

当会顧問22望月乙彦氏は、去る三月二十四日逝去されました。葬儀は四月一〇日千日谷会堂で行われ、会から月見里委員が代表として参列いたしました。

編集後記

会報13号が出来上りました。今回60上杉重吉氏を新委員に迎え、編集会議も何回か開いての苦心の成果です。紙数の関係で一部分割のやむなきに至ったことをお詫び申し上げます。

短歌・俳句等もお寄せ下されば紙面も一層華やかさを増すものと考えられます。奮ってご応募下さい。

会 報(第十三号)

昭和57年6月25日 発行

編集人 月見里得知郎

発行所 静岡・静岡

印刷所 庵原印刷所

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝(53回)
取締役社長 奥 野 進(56回)
取締役副社長 吉 川 善 吉(56回)

本 社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
TEL 03-842-6831(代表)
静岡事務所 静岡市安東2-8-14
TEL 0542-46-9378

建築コンサルタント・設計施行業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥 野 孝(53回)
取締役営業部長 奥 野 広(58回)

本 社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-834-5331(代表)

鈴 与 株 式 会 社

取締役会長 鈴 木 与 平 (44回)

清 水 市 入 船 町 11 - 1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮 澤 次 郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

株式会社 講 談 社

取締役名誉会長 野 間 省 一 (44回)

東京都文京区音羽2-12-21

TEL (945) 1111 (大代表)

株式会社 東 電 社

取締役社長 岩 波 信 平 (42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

合同酒精株式会社

取締役副社長 堀 豪 三 (44回)

東京都中央区銀座6-2 合同ビル

TEL (571) 8641 (大代表)

川 根 銘 茶

三保乃園 山 菅 茶 店

山 菅 章 雄 (53回)
(村 松 正 七)

東京都港区南青山1-20-6

TEL 03-403-5760

本田技研工業株式会社

川 島 喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩 井 平一郎 (57回)

本 社 静 岡 市 国 吉 田 645

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

新日本証券株式会社

取締役社長 大 石 巖 (53回)

東京都中央区日本橋1-17-10

TEL (273) 2311 (大代表)

